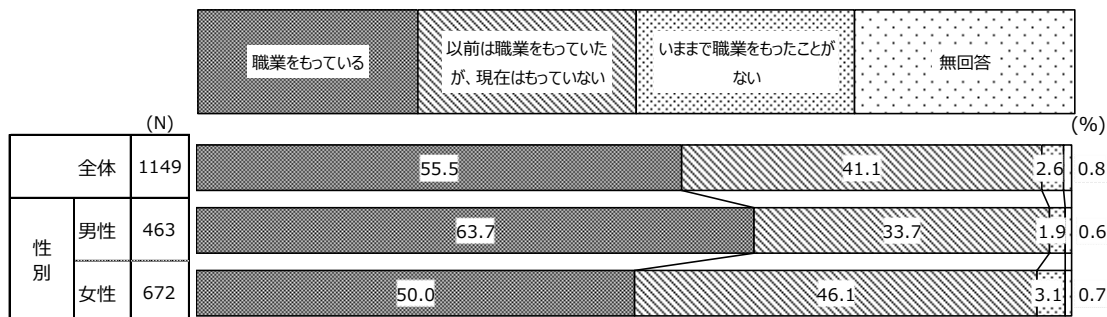


## C 仕事と家庭の両立について

### (1) 就業状況

Q8 あなたは現在職業をもっていますか。(〇は1つ)



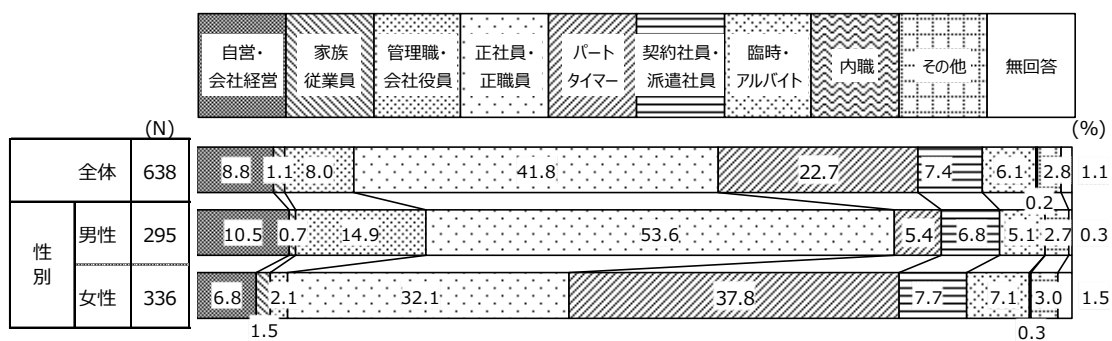
現在の就業状況については、全体では「職業をもっている」が55.5%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」が41.1%となっている。

性別では、「職業をもっている」は男性63.7%、女性50.0%で女性が13.7ポイント低く、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」は男性33.7%、女性46.1%で女性が12.4ポイント高くなっている。

### (2) 就業形態

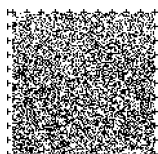
【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

Q8-1 あなたの就業形態は、次のどれに該当しますか。(〇は1つ)

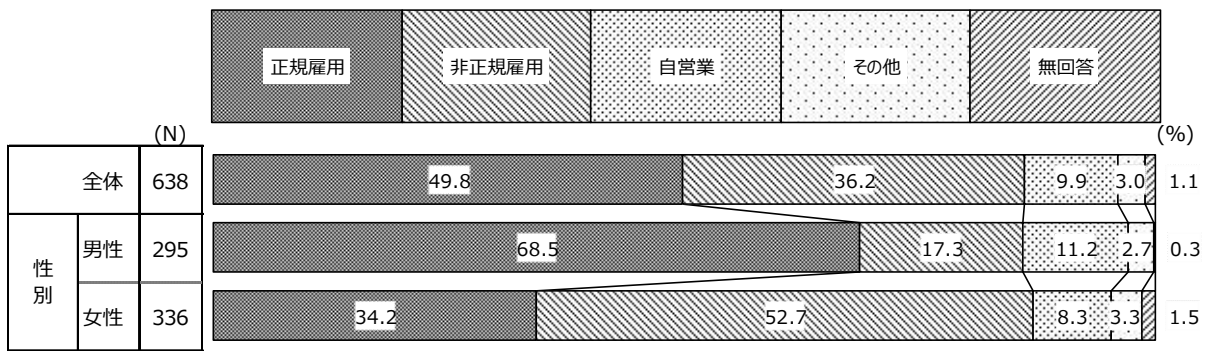


就業形態は、全体では「正社員・正職員」が41.8%でもっとも高く、次いで「パートタイマー」22.7%、「自営・会社経営」8.8%、「管理職・会社役員」8.0%となっている。

性別でみると、「正社員・正職員」は男性(53.6%)が女性(32.1%)を21.5ポイント上回り、「パートタイマー」は女性(37.8%)が男性(5.4%)を32.4ポイントと大きく上回っている。また、「管理職・会社役員」では男性(14.9%)が女性(2.1%)を12.8ポイント上回っている。



### (3) 雇用形態



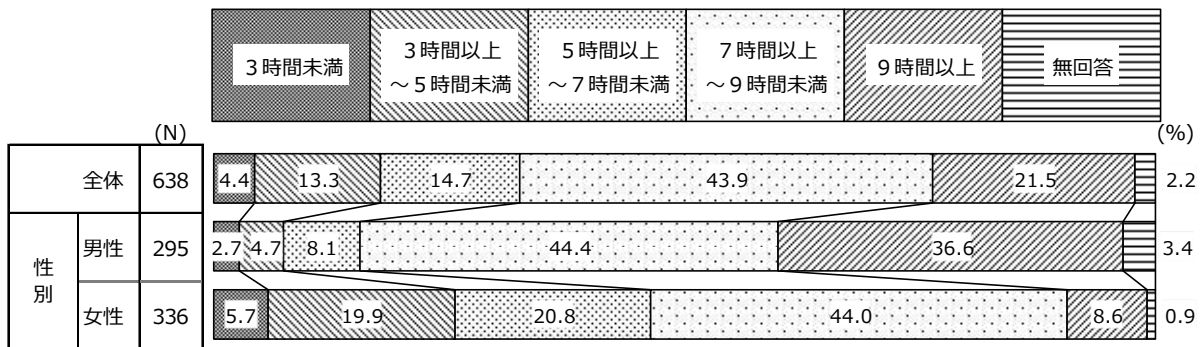
雇用形態は、全体では「正規雇用」が49.8%、「非正規雇用」が36.2%、「自営業」が9.9%、「その他」が3.0%となっている。

性別で見ると、男性は「正規雇用」が68.5%と高く、女性は「非正規雇用」が52.7%と高くなっている。

### (4) 実労働時間

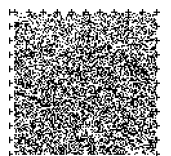
【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

Q8-2 あなたの一日平均の実労働時間はどれくらいですか。(〇は1つ)



実労働時間は、全体では「7時間以上～9時間未満」が43.9%でもっとも高く、次いで「9時間以上」が21.5%、「5時間以上～7時間未満」が14.7%、「3時間以上～5時間未満」が13.3%となっている。

性別で見ると、「7時間以上～9時間未満」は男性(44.4%)、女性(44.0%)とともに高くなっている。次いで、男性は「9時間以上」が36.6%、女性は「5時間以上～7時間未満」が20.8%、「3時間以上～5時間未満」が19.9%と続いている。

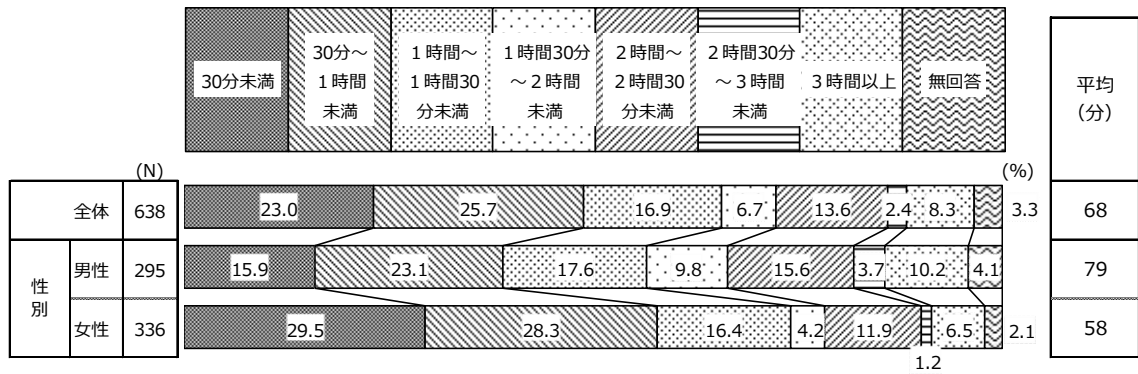


(5) 通勤時間（往復）

【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

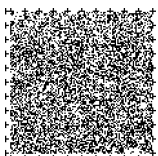
Q8-3 あなたの通勤時間はどれくらいですか。（ ）にご記入ください。

※通勤時間は往復の合計時間を記入



通勤時間は、全体では「30分～1時間未満」が25.7%、「30分未満」が23.0%、「1時間～1時間30分未満」が16.9%となっている。

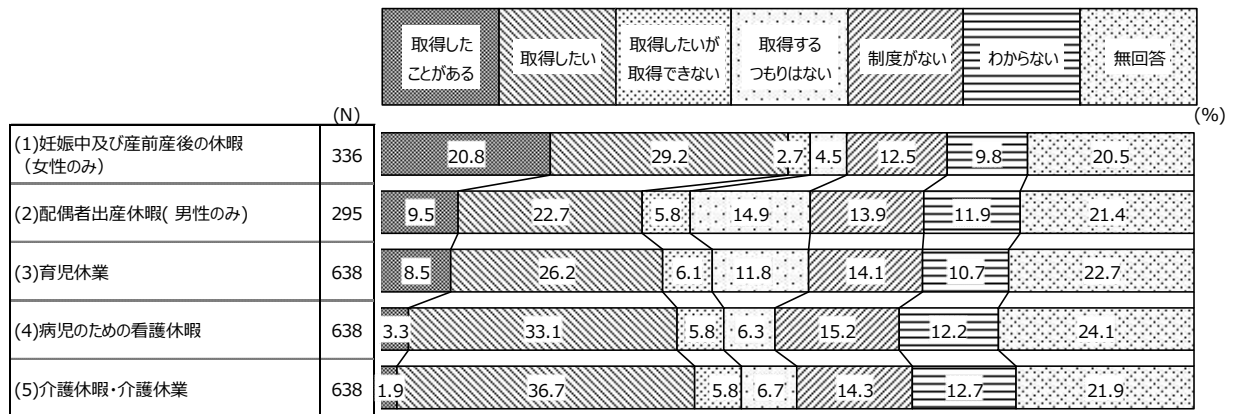
平均通勤時間をみると、全体での平均は68分となっており、性別では男性（79分）が女性（58分）より21分長くなっている。



(6) 産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業の取得の有無と取得希望

【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

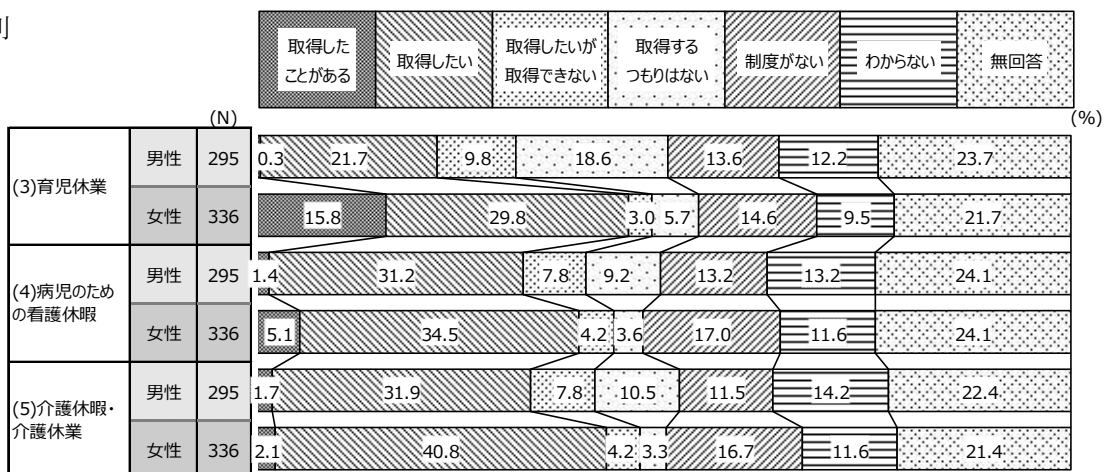
Q8-4 妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休暇、介護休業を取得したことがありますか。または、取得したいと思いますか。(1)～(5)の各項目につき○は1つ)



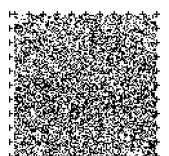
出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業の取得経験(「取得したことがある」)は、女性のみ質問した『妊娠中及び産前産後の休暇』が20.8%でもっとも高く、以下、男性のみ質問した『配偶者出産休暇』(9.5%)、『育児休業』(8.5%)、『病児のための看護休暇』(3.3%)、『介護休暇・介護休業』(1.9%)の順となっている。

こうした休暇・休業の取得意向(「取得したい」)は、『介護休暇・介護休業』が36.7%でもっとも高く、以下、『病児のための看護休暇』(33.1%)、『妊娠中及び産前産後の休暇』(29.2%)、『育児休業』(26.2%)、『配偶者出産休暇』(22.7%)の順となっている。なお、いずれの休暇・休業についても、職場に「制度がない」が1割強を占めている。

■性別

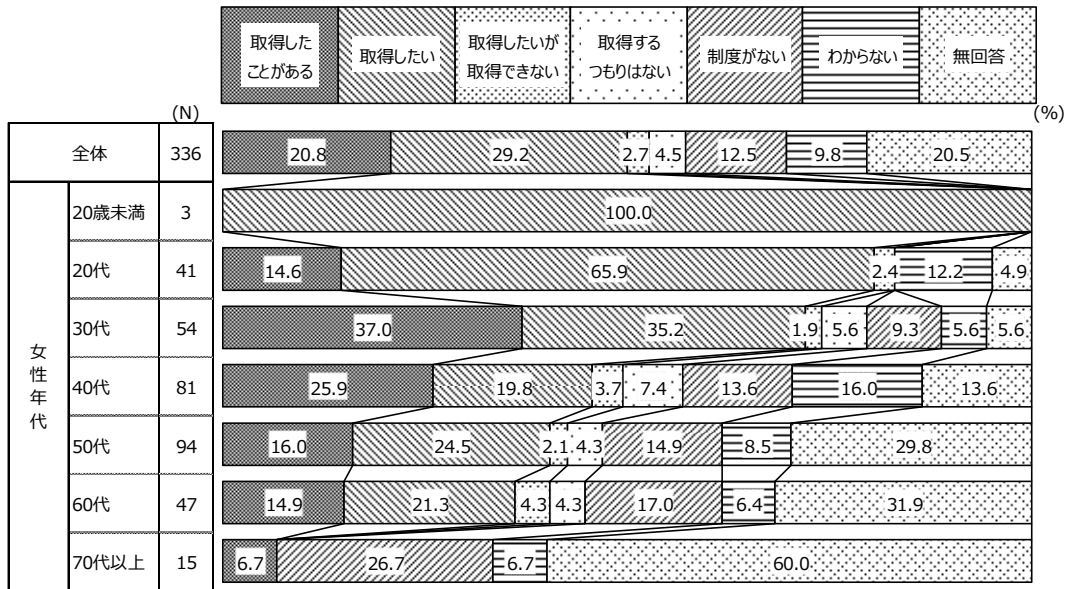


性別でみると、『育児休業』は女性の取得経験(15.8%)、取得意向(29.8%)が高く、『介護休暇・介護休業』では女性の取得意向(40.8%)が男性(31.9%)より8.9ポイント高くなっている。



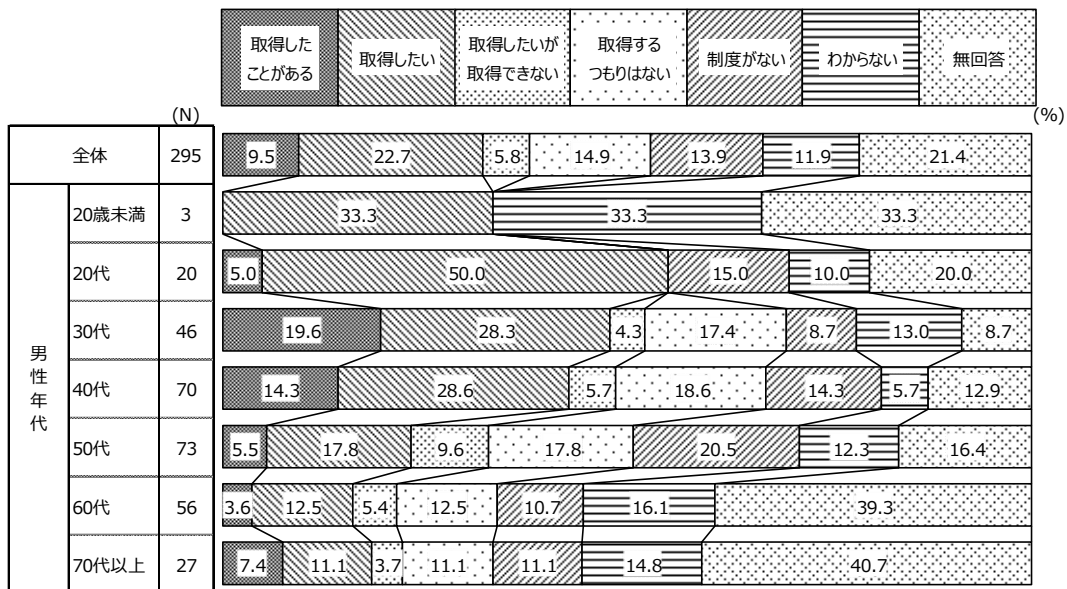
■性別・年代別

C (6)-(1) 妊娠中及び産前産後の休暇(女性のみ)

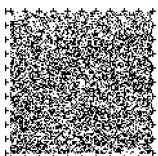


年代別の取得経験は、30代・40代で37.0%、25.9%と高く、取得意向は、20代が65.9%でもっとも高く、次いで30代が35.2%と高くなっている。

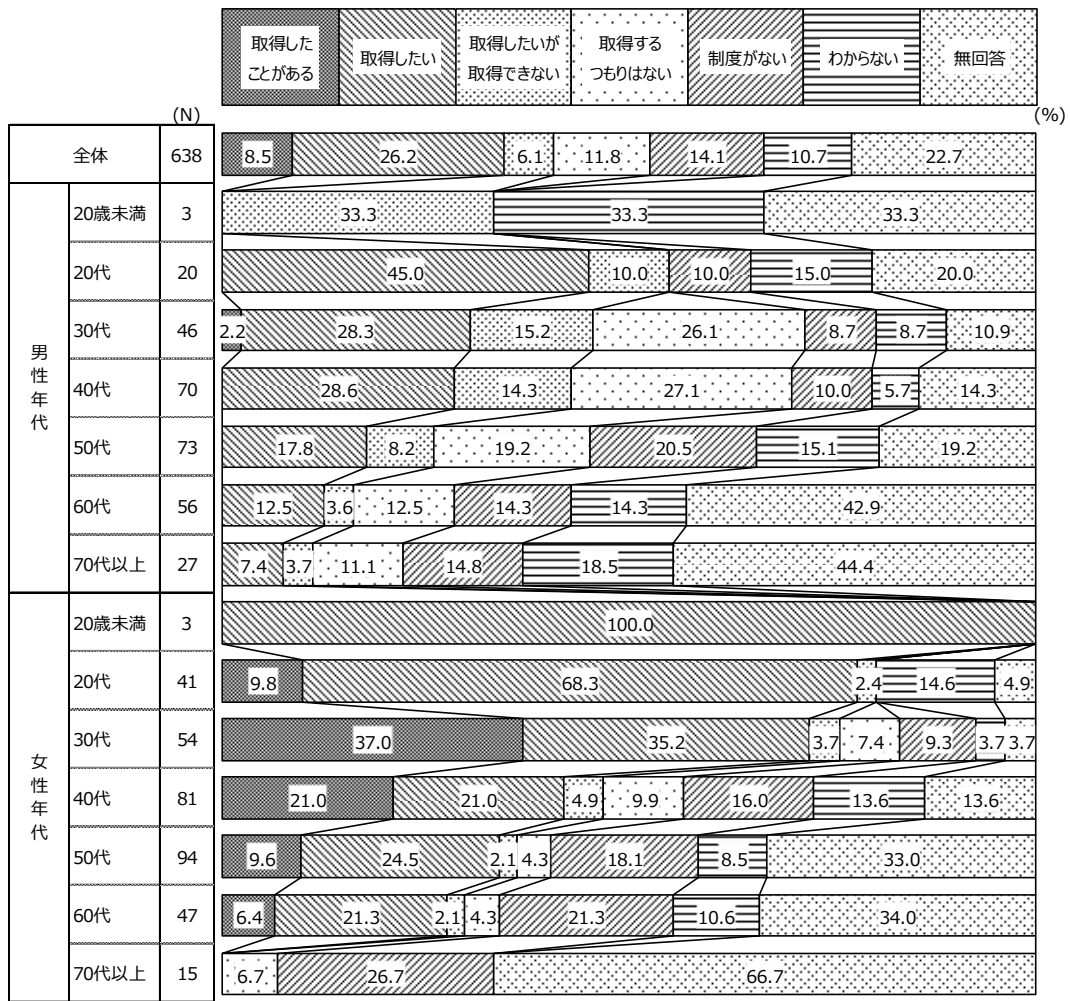
C (6)-(2) 配偶者出産休暇(男性のみ)



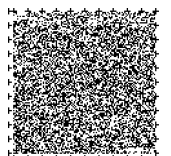
年代別の取得経験は、30代・40代で19.6%、14.3%と高い。取得意向は20代で50.0%ともっとも高く、男性30代・40代で28.3%、28.6%と続いている。



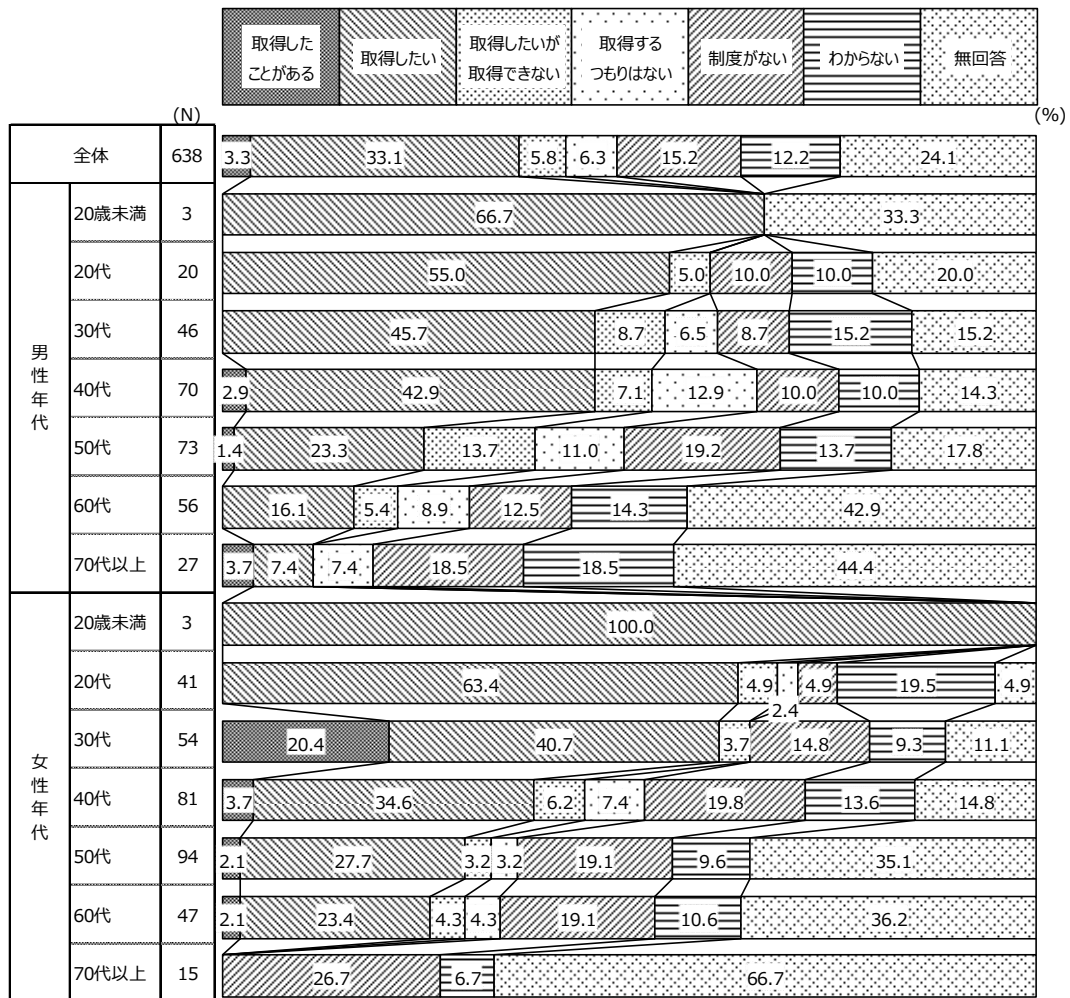
C (6)-(3) 育児休業



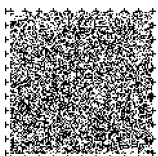
性別・年代別の取得経験は、女性30代・40代で37.0%、21.0%と高くなっている。取得意向は、男性20代で45.0%、女性20代・30代で68.3%、35.2%と高くなっている。



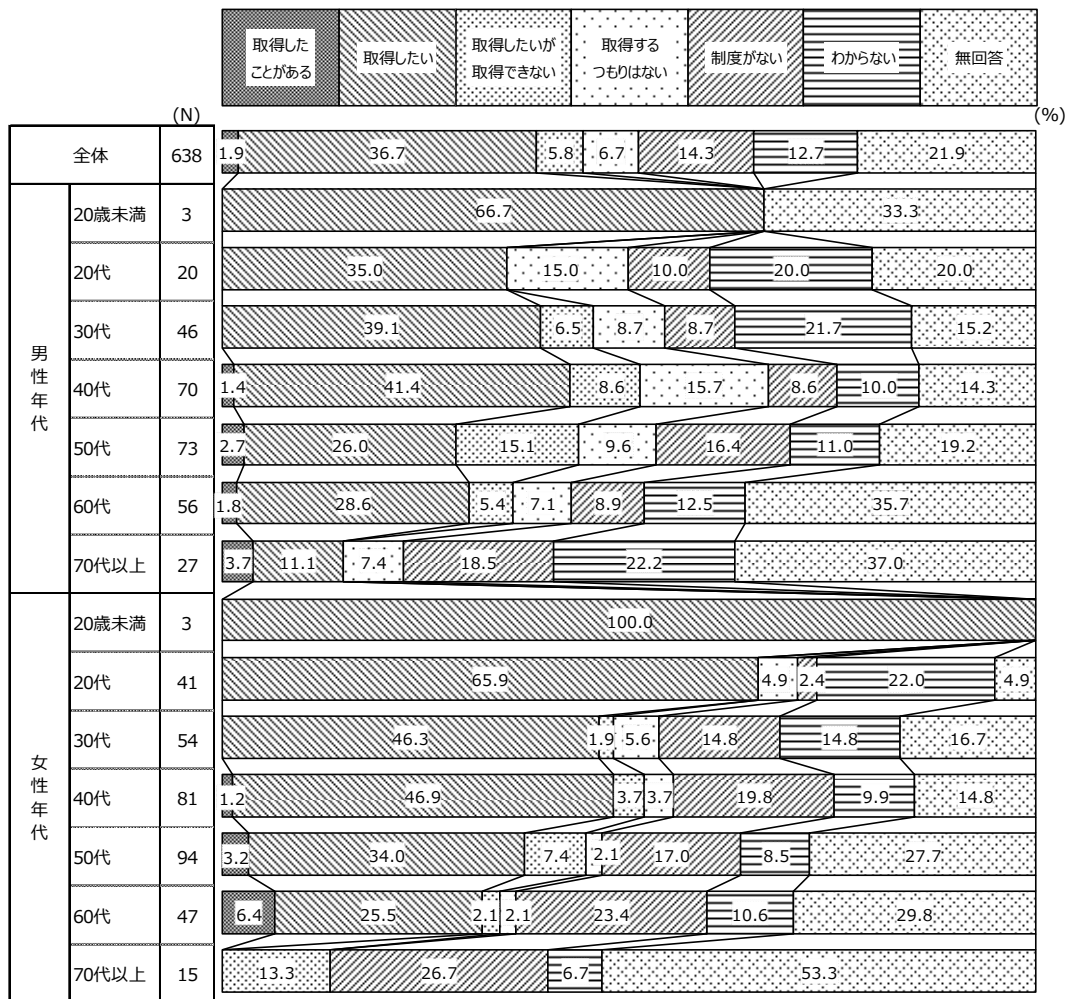
C (6)-(4) 病児のための看護休暇



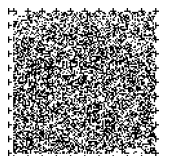
性別・年代別の取得経験は、女性30代で20.4%と高くなっている。取得意向は、男性20代で55.0%と高く、30代で45.7%、40代で42.9%と続いている。女性では20代が63.4%ともっとも高くなっている。



C (6)-(5) 介護休暇・介護休業



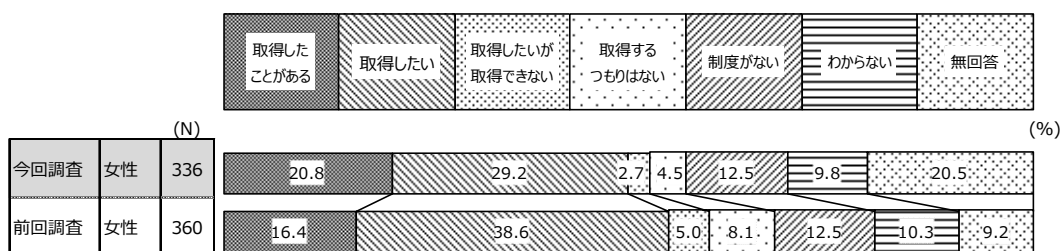
性別・年代別の取得経験は、女性60代が6.4%でもっとも高くなっている。取得意向は、女性20代で65.9%、女性30代・40代で46.3%、46.9%と高く、男性は40代が41.4%ともっとも高くなっている。





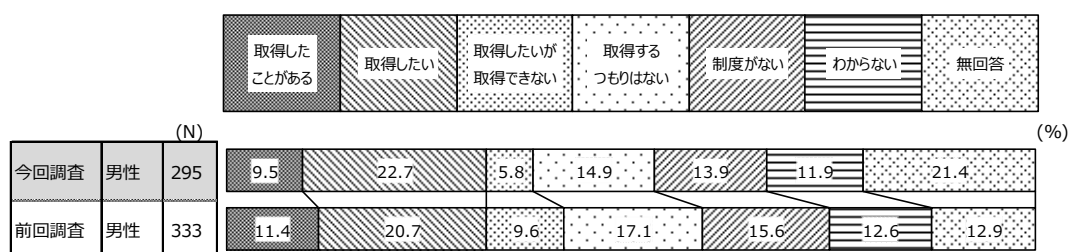
◎経年比較

C (6)-(1) 妊娠中及び産前産後の休暇(女性のみ)



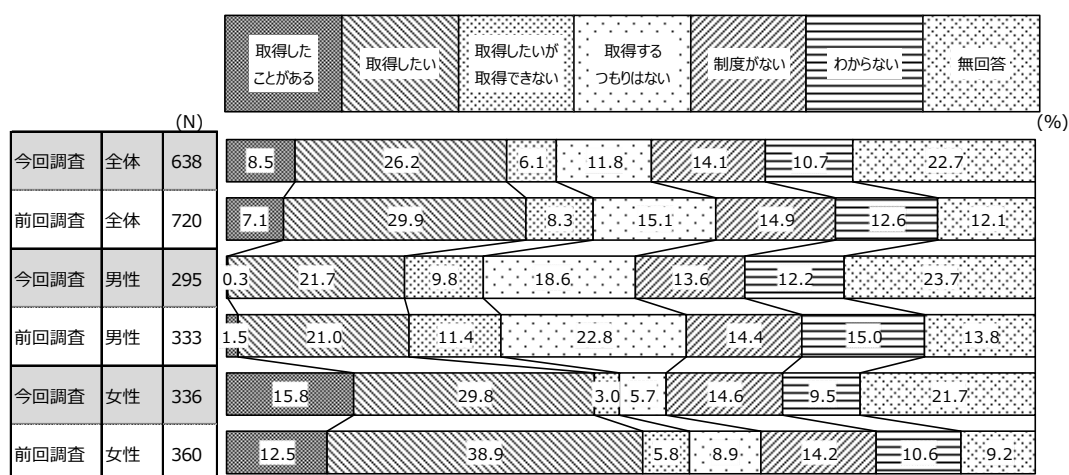
前回調査と比較すると、「取得したことがある」は4.4ポイント増加している。また、「取得したい」は9.4ポイント減少、「取得するつもりはない」は3.6ポイント減少している。

C (6)-(2) 配偶者出産休暇(男性のみ)

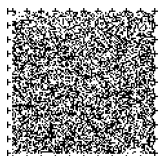


前回調査と比較すると、「取得したい」は2.0ポイント増加している。また、「取得したことがある」は1.9ポイント減少、「取得したいが取得できない」は3.8ポイント減少、「取得するつもりはない」は2.2ポイント減少している。

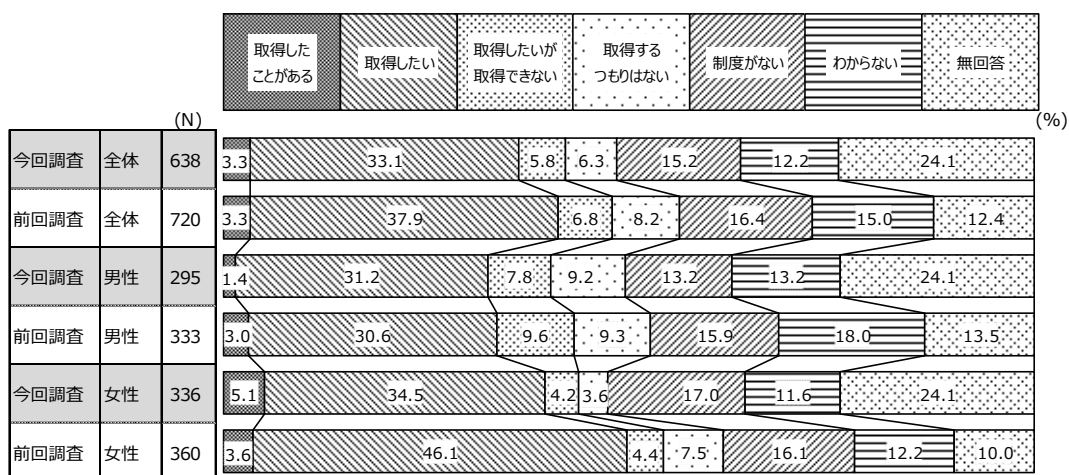
C (6)-(3) 育児休業



前回調査と比較すると、「取得したことがある」は全体で1.4ポイント、女性で3.3ポイント増加している。また、「取得したい」は全体で3.7ポイント、女性で9.1ポイント減少している。「取得するつもりはない」は男性で4.2ポイント減少、女性で3.2ポイント減少している。

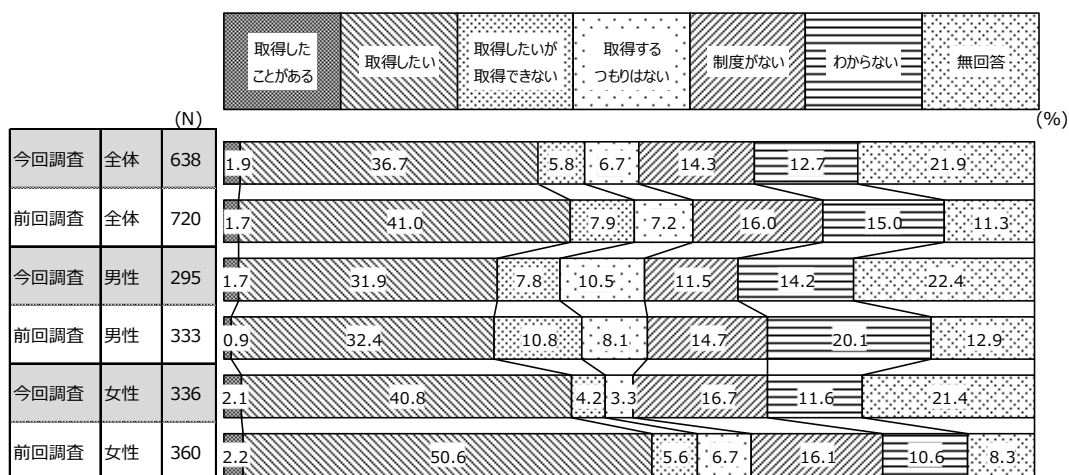


C (6)-(4) 病児のための看護休暇

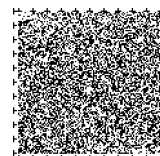


前回調査と比較すると、「取得したい」の割合が全体で4.8ポイント減少、女性で11.6ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で1.2ポイント減少、男性で2.7ポイント減少している。

C (6)-(5) 介護休業



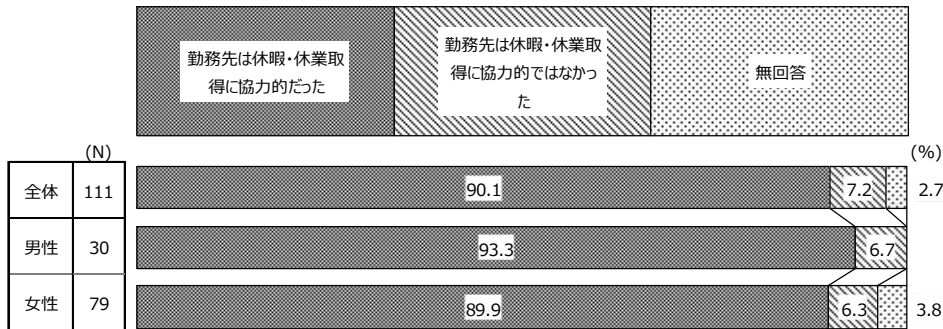
前回調査と比較すると、「取得するつもりはない」の割合は男性で2.4ポイント増加、女性で3.4ポイント減少している。また、「取得したい」の割合が全体で4.3ポイント減少、女性で9.8ポイント減少している。「取得したいが取得できない」の割合が全体で2.1ポイント減少、男性で3.0ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で1.7ポイント減少、男性で3.2ポイント減少している。



(7) 取得時の勤務先の対応 (取得前・取得中・取得後)

Q8-4-1 Q8-4で1つでも「取得したことがある」とお答えの方におたずねします。  
 取得時の勤務先の対応はどうでしたか。(〇は1つ)  
 また、勤務先の対応や職場の雰囲気などをよろしければ具体的に記入してください。

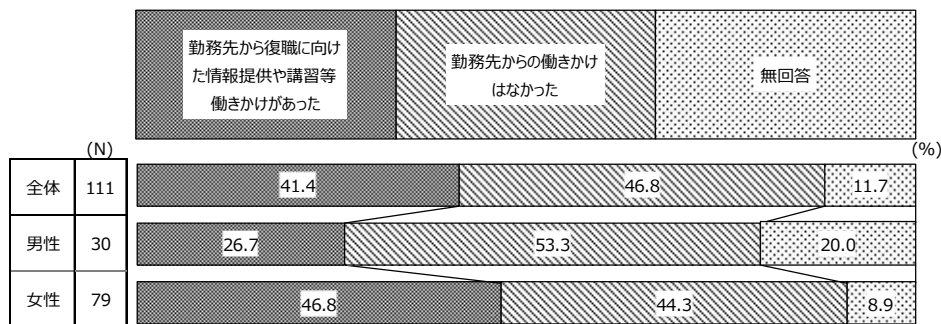
①取得前



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業を取得する前の勤務先の状況は、「休暇・休業取得に協力的だった」が90.1%、「協力的でなかった」が7.2%となっている。

性別でみても、男女とも「協力的だった」が9割前後(男性93.3%、女性89.9%)となっている。

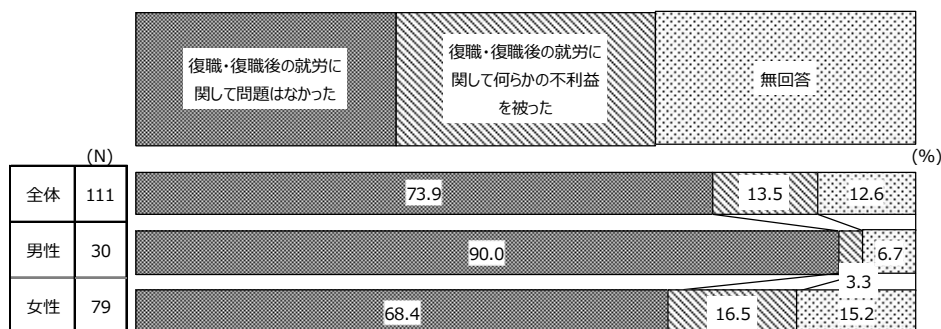
②取得中



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得中の状況は、「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が41.4%、「勤務先から働きかけはなかった」が46.8%となっている。

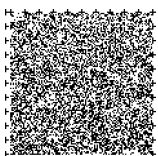
性別でみると、女性は「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が46.8%であり、男性は26.7%と、女性の方が高くなっている。

③取得後



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得後の状況は、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」が73.9%となっており、「何らかの不利益を被った」が13.5%となっている。

性別でみると、女性は「何らかの不利益を被った」が16.5%と男性に比べ高くなっている。



■勤務先の対応や職場の雰囲気などについての記入内容

①取得前

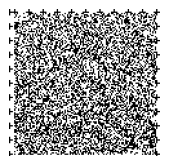
◆勤務先は休暇・休業取得に協力的だった
・職場全体で協力してくれた（女性・20代）、職場全体が妊娠したら産休・育休・復帰するのが当たり前という考え。（女性・30代） ・種々の休暇を取得している前例があり理解協力が得られやすかった（女性・40代） ・上司に陣痛が来たらそばにいてあげるように言ってもらえた（男性・20代） ・自分が管理職だったので休めた（現役の時）（男性・70代） ・有休を利用、1日程度の短い休みを取得、特に制限など無し（男性・40代）
◆勤務先は休暇・休業取得に協力的ではなかった
・同僚からの陰口が毎日あった（女性・20代） ・辞職せざるをえない状況（女性・40代）、取得するなら辞表を出すよう言われた（女性・40代） ・一週間だけだったが、良い顔はしなかった。（男性・30代）

②取得中

◆勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった
・メールで近況報告が来たり総務から手紙が来た（女性・40代） ・早く復帰するようせかされた（女性・30代）
◆勤務先から働きかけはなかった
・会社側からは特になかったので自分で動いた（女性・40代） ・出産1週間前に、いつ戻るのかなど復職の催促があった。1年取りたい、じっくり子育てをしたいと話すと露骨に嫌な顔をされた（女性・20代）

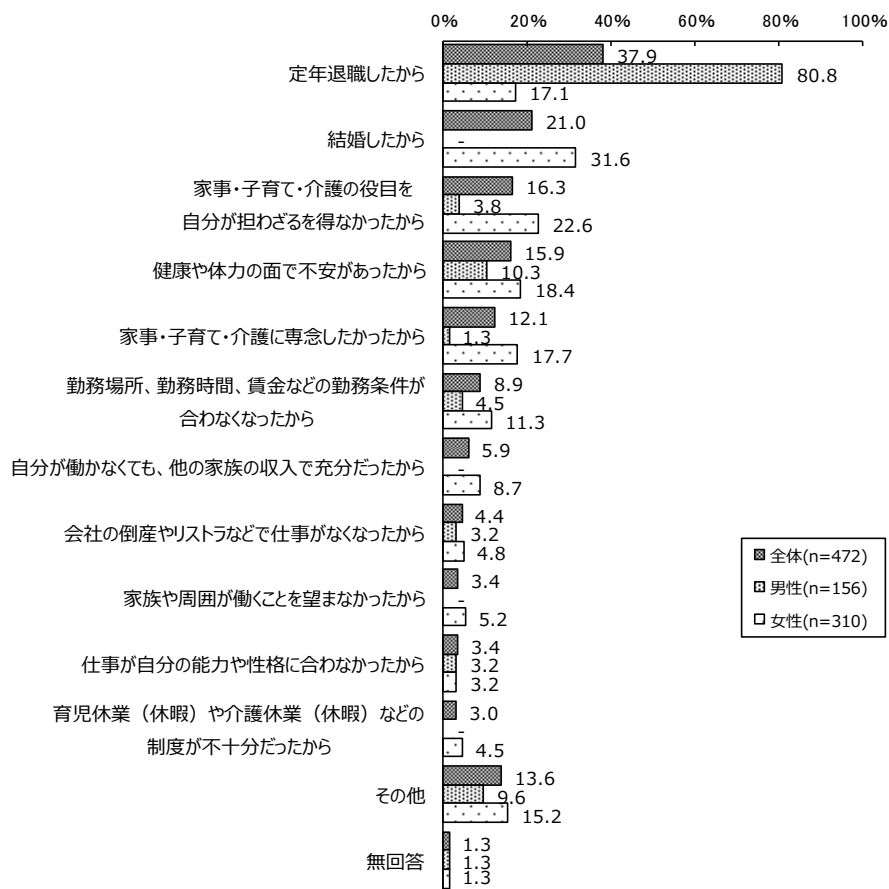
③取得後

◆復職・復職後の就労に関して問題はなかった
・期間が短いので特に問題はなかった（男性・20代） ・子どもがいる為残業はしない様に対応してくれている（女性・30代）
◆復職・復職後の就労に関して何らかの不利益を被った
・復職はできなかった（女性・40代）、新生児に対して理解されず退職した（女性・50代） ・いじめにあった（女性・30代）、セクハラ、パワハラを受けた（女性・50代） ・子どもが多いから有給取得が多いと言われた。（女性・20代） ・遠い職場等をすすめられた。正社員になるためには転勤できないとダメだと言われた。（女性・20代）



## (8) 以前の職業をやめた理由

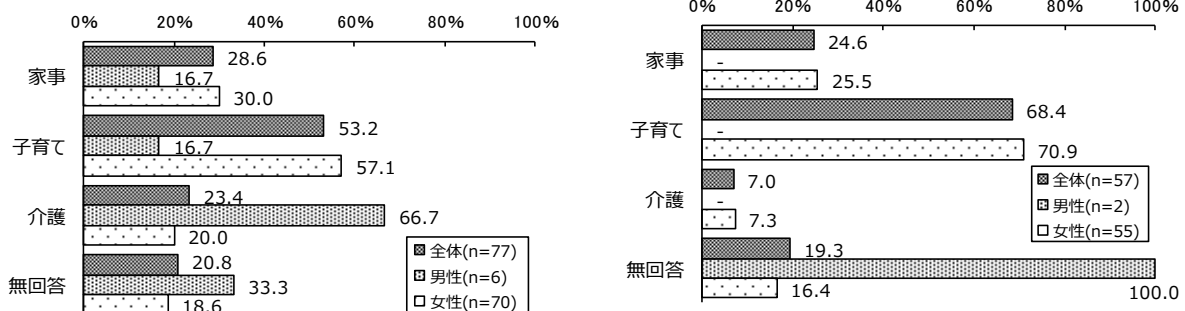
Q9 Q8で「2. 以前職業をもっていたが、現在はもっていない」とお答えの方におたずねします。あなたが以前の職業をやめたのはなぜですか。(〇は3つまで)



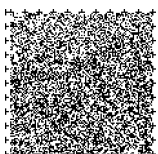
以前の職業をやめた理由は、男性では「定年退職したから」が80.8%と特に高く、女性は「結婚したから」が31.6%でもっとも高い。次いで女性は「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」(22.6%)、「健康や体力の面で不安があったから」(18.4%)、「家事・子育て・介護に専念したかった」(17.7%)となっている。

### ■主な理由

家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから 家事・子育て・介護に専念したかったから

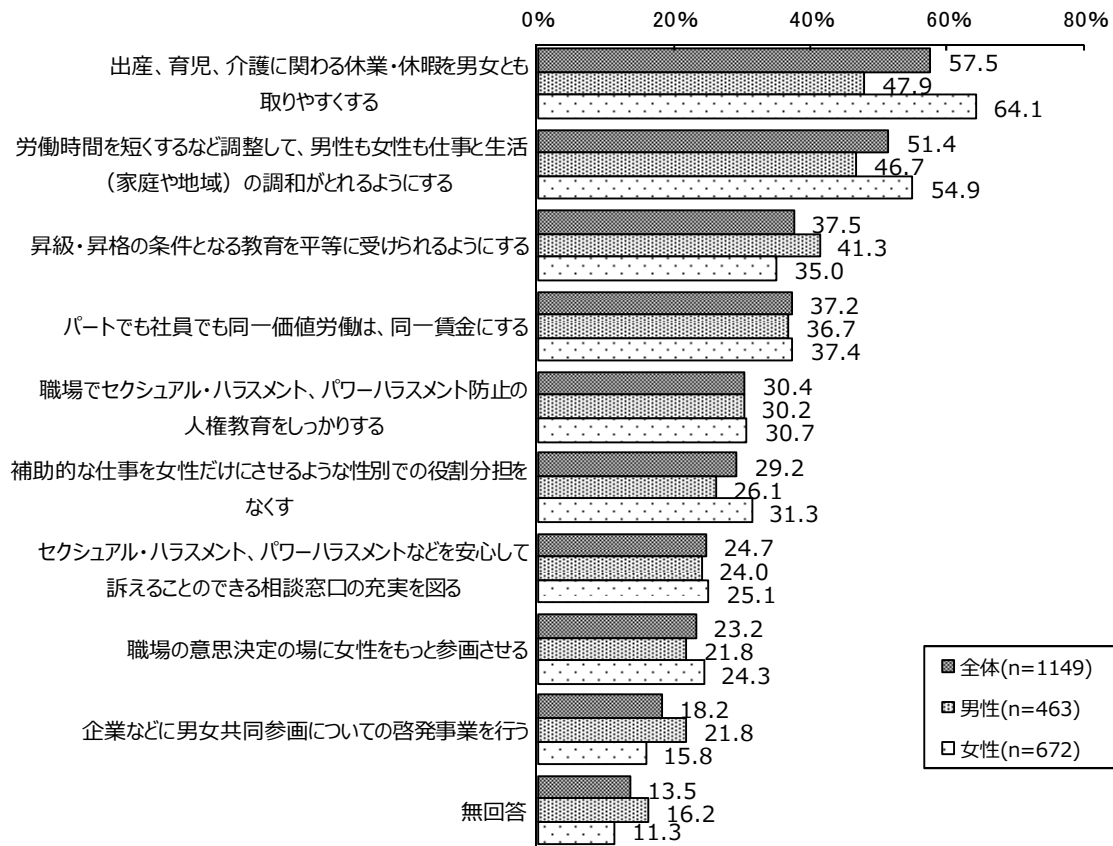


「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」の主な理由を全体で見ると、「子育て」が53.2%、「家事」が28.6%、「介護」が23.4%となっている。「家事・子育て・介護に専念したかったから」の主な理由を全体で見ると、「子育て」が68.4%、「家事」が24.6%、「介護」が7.0%となっている。

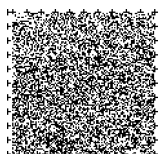


(9) 自らの能力を発揮していきいきと働くために必要だと思うこと

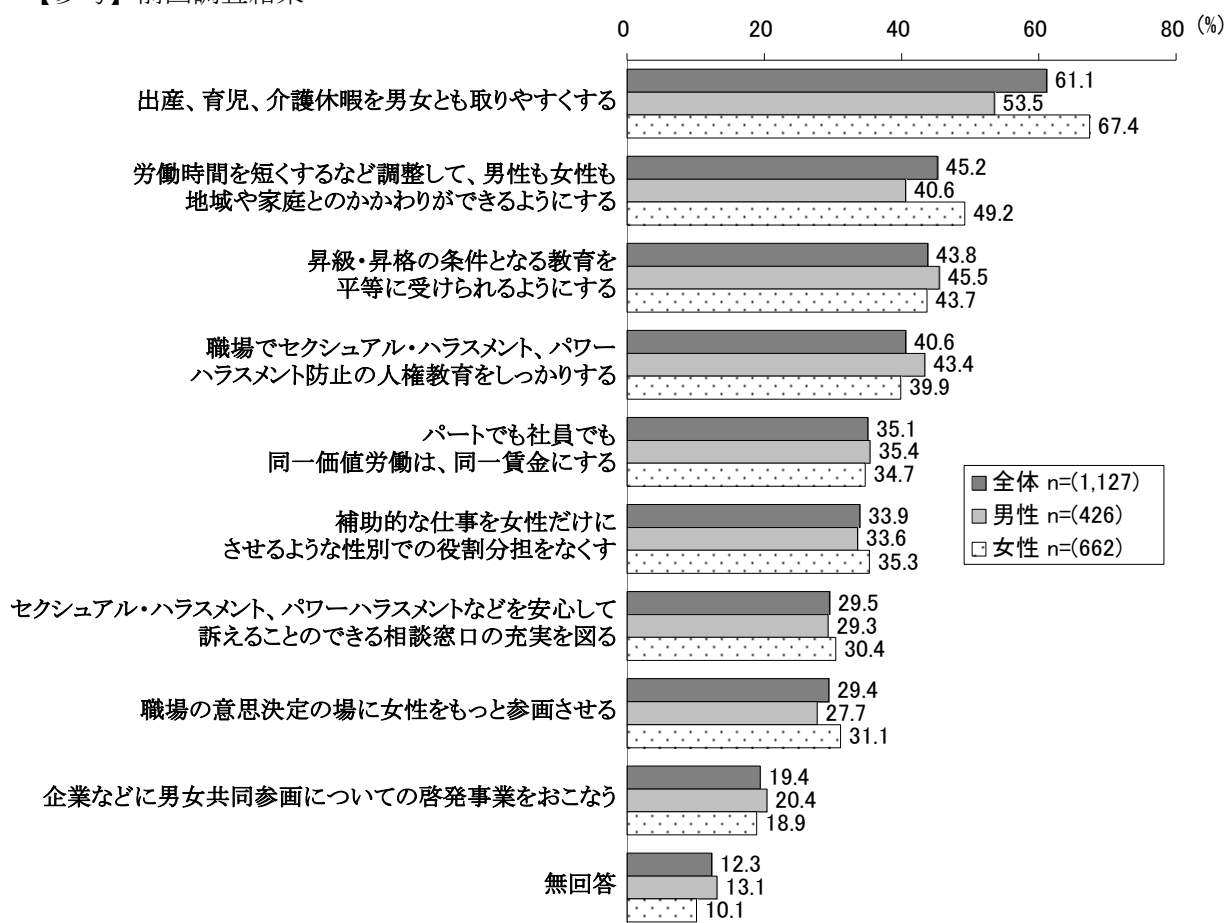
Q10 自らの能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)



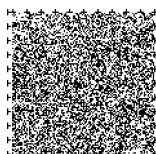
自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」が全体で57.5%、女性が64.1%、男性が47.9%でそれぞれもっとも高く、女性が男性より16.2ポイント高くなっている。次いで「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」は全体で51.4%、女性が54.9%、男性が46.7%となっている。「昇級・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」は全体で37.5%、男性41.3%、女性35.0%で、男性が女性より6.3ポイント高くなっている。



【参考】 前回調査結果



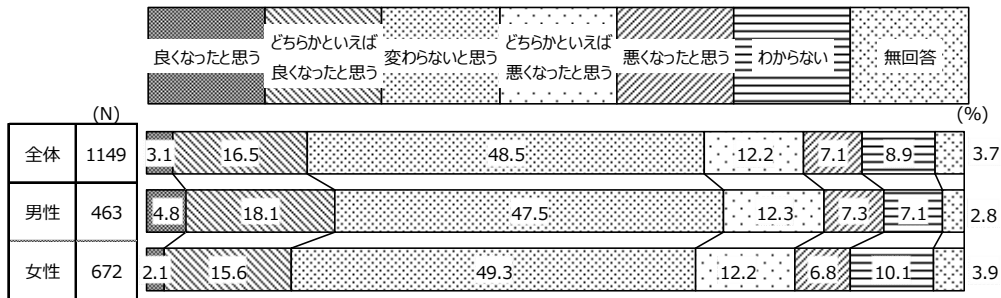
前回調査結果でも、「出産、育児、介護休暇を男女とも取りやすくする」が全体61.1%、女性67.4%、男性53.5%でもっとも高く、女性が男性より13.9ポイント高くなっている。次いで、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も地域や家族とのかかわりができるようにする」が全体で45.2%となっている。



(10) 生活や身の回りの環境の5年前との比較

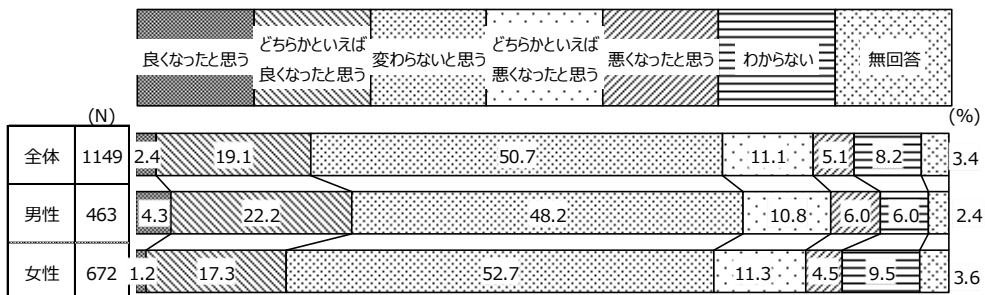
Q11 政府では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が5年前と比較してどのように変化していると思いますか。（(1)～(3)の各項目につき○は1つ）

①就労による経済的自立が可能な社会



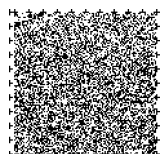
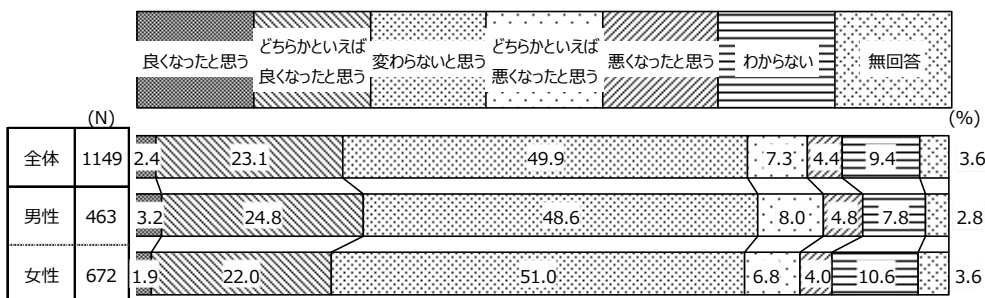
『就労による経済的自立が可能な社会』では、「良くなったと思う」と「どちらかといえば良くなったと思う」の合計である「良くなった(計)」が19.6%、「変わらないと思う」が48.5%、「悪くなったと思う」と「どちらかといえば悪くなったと思う」の合計である「悪くなった(計)」が19.3%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が22.9%とやや高い。

②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』では、「良くなった(計)」が21.5%、「変わらないと思う」が50.7%、「悪くなった(計)」が16.2%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が26.5%とやや高い。

③多様な働き方・生き方が選択できる社会

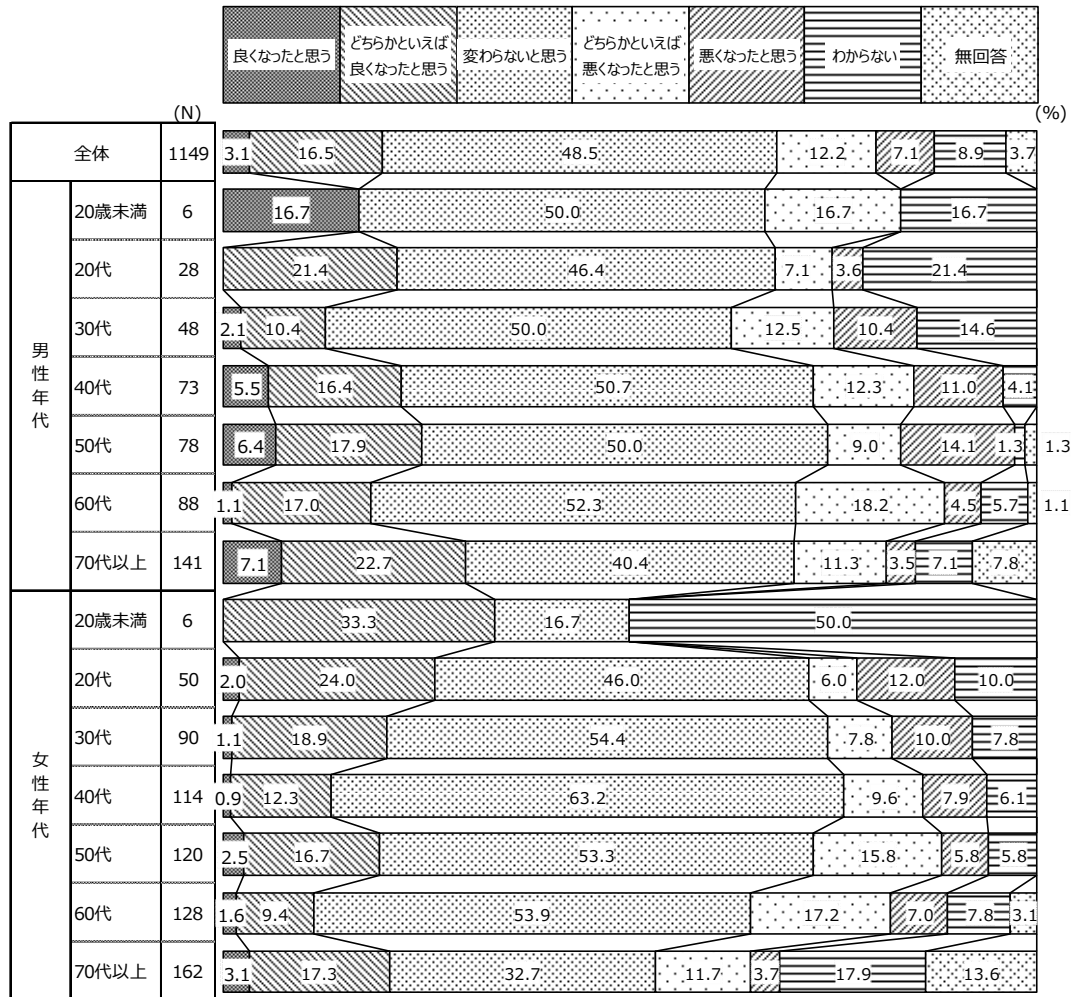




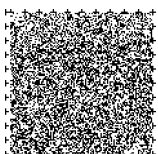
『多様な働き方・生き方が選択できる社会』では、「良くなった(計)」が25.5%、「変わらないと思う」が49.9%、「悪くなった(計)」が11.7%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が28.0%とやや高い。

■性別・年齢別

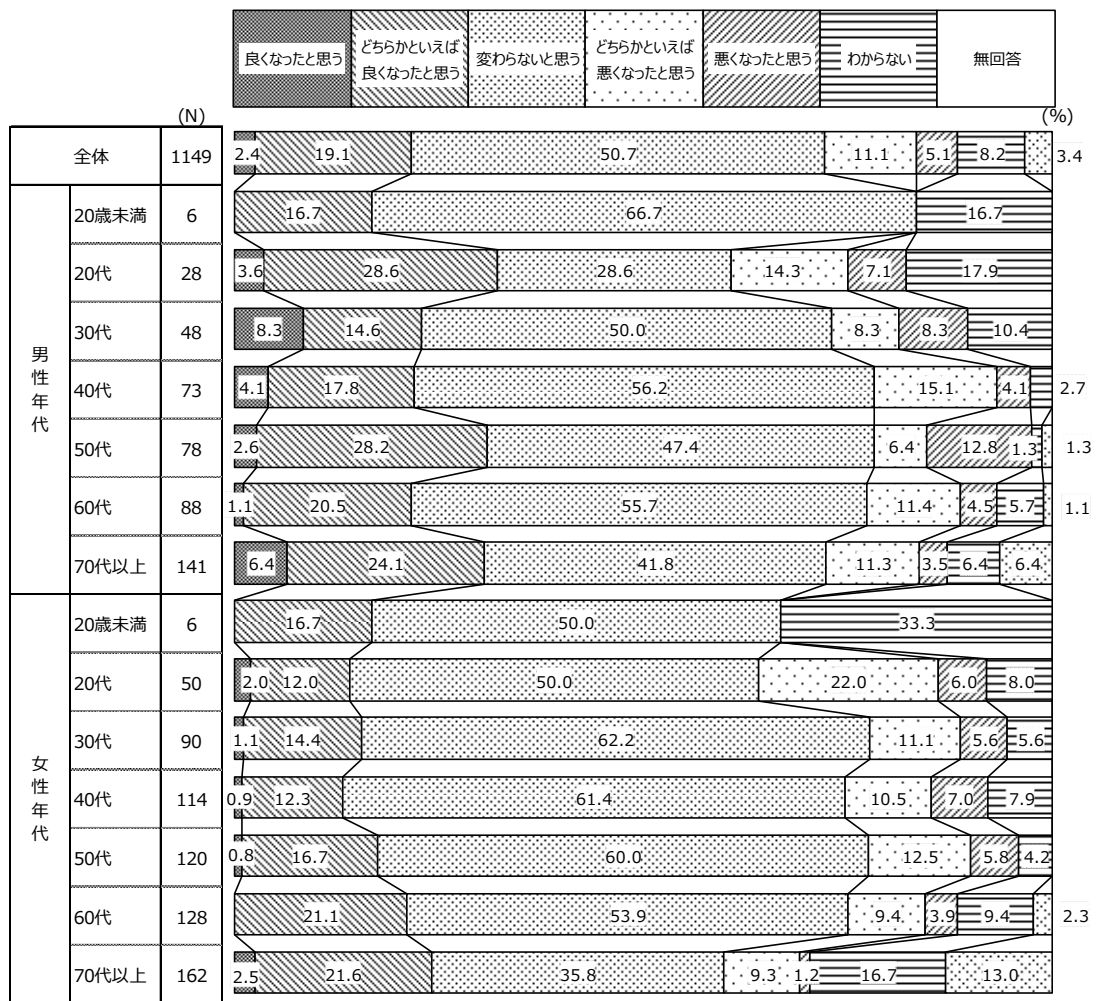
(1) 就労による経済的自立が可能な社会



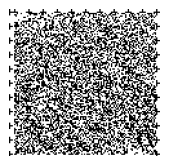
『就労による経済的自立が可能な社会』を性別・年代別でみると、男性70代以上で「良くなった(計)」が29.8%と高い。これに対し、女性40代では「変わらない」が63.2%と高くなっている。



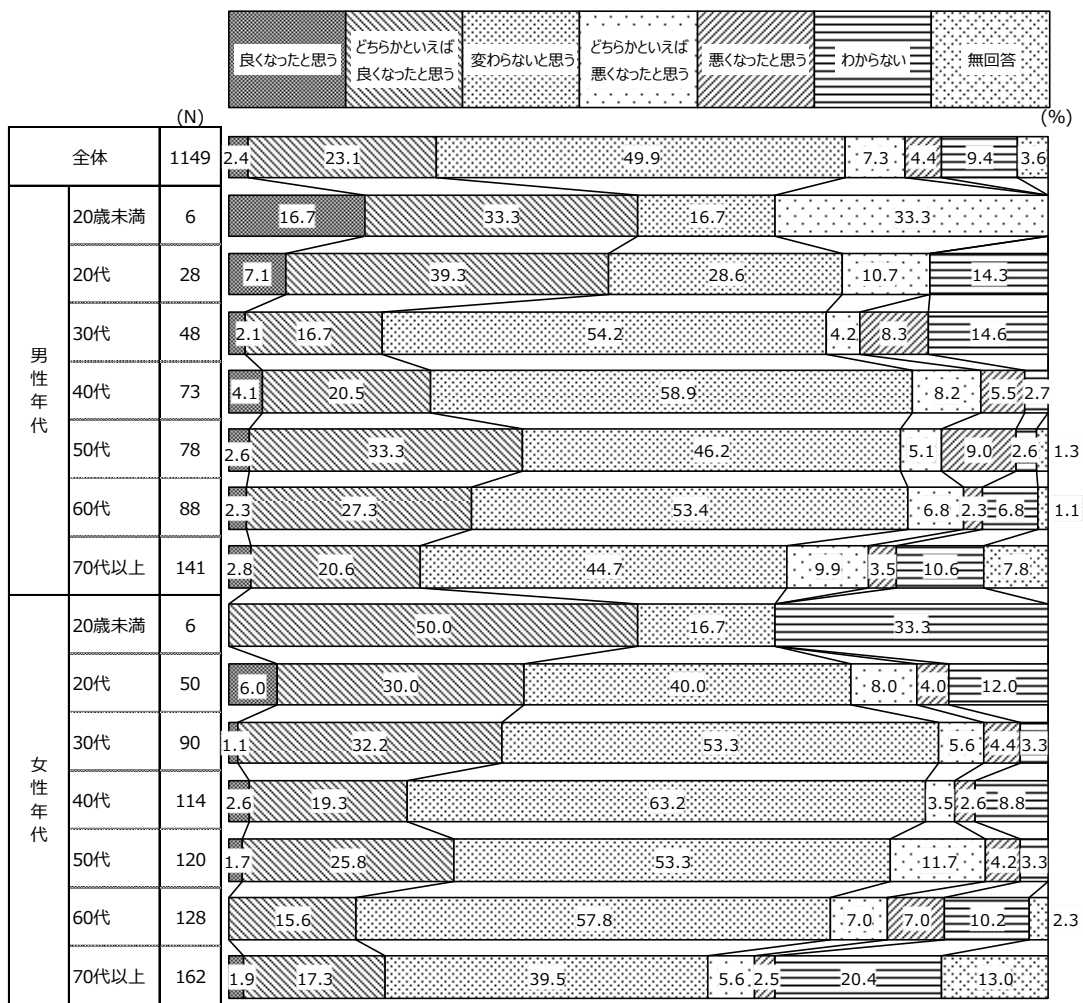
(2)健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



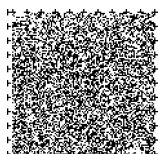
『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』を性別・年代別でみると、男性は20代・50代・70代以上で「良くなった(計)」が30.5～32.2%と高い。これに対し、女性は20代で「悪くなった(計)」が28.0%と高く、30代～50代で「変わらない」が60.0～62.2%と高くなっている。



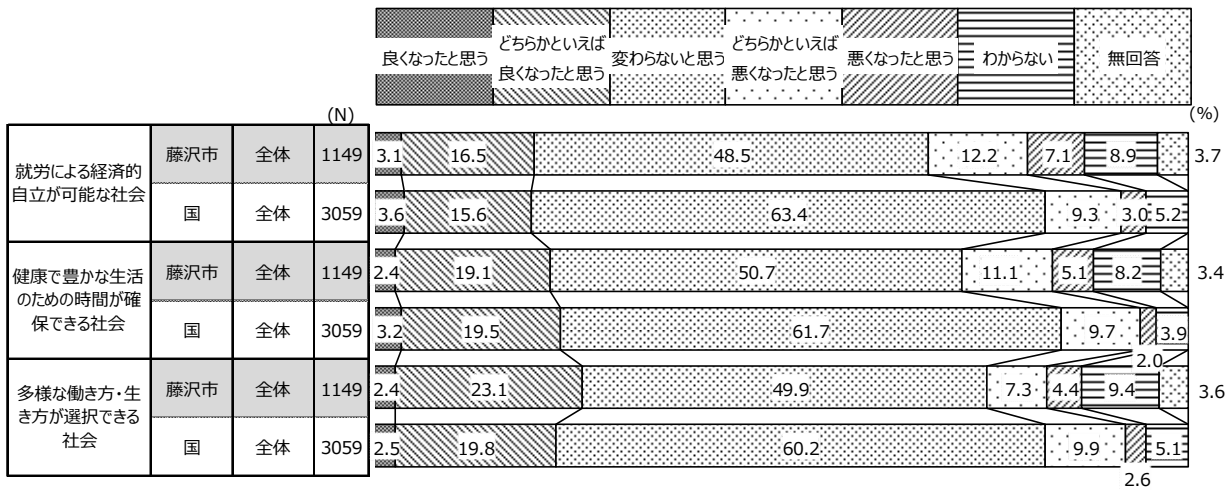
(3)多様な働き方・生き方が選択できる社会



『多様な働き方・生き方が選択できる社会』を性別・年代別で見ると、男性20代・50代、女性20代・30代で「良くなった(計)」が33.3~46.4%と高い。これに対し、男性40代、女性40代・60代は「変わらない」が57.8~63.2%と高くなっている。



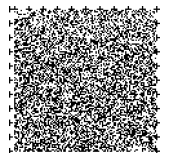
●国との比較



『就労による経済的自立が可能な社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査63.4%、藤沢市48.5%で藤沢市が14.9ポイント低い。「良くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「悪くなった（計）」は国12.3%に対し藤沢市は19.3%で7.0ポイント高くなっている。

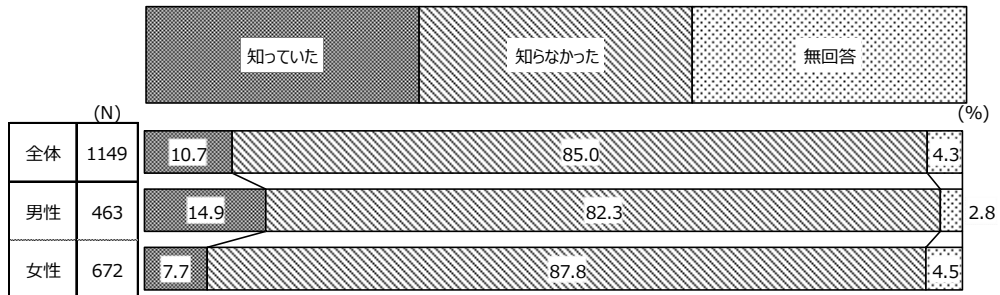
『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査61.7%、藤沢市50.7%で藤沢市が11.0ポイント低い。「良くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「悪くなった（計）」は国11.7%に対し藤沢市は16.2%で4.5ポイント高くなっている。

『多様な働き方・生き方が選択できる社会』も同様に「変わらないと思う」の割合が高く、国60.2%、藤沢市49.9%で藤沢市が10.3ポイント低い。「良くなった（計）」は国22.3%、藤沢市25.5%で藤沢市が3.2ポイント高い。「悪くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。



### (11) 介護休業・介護休暇の制度改革の認知状況

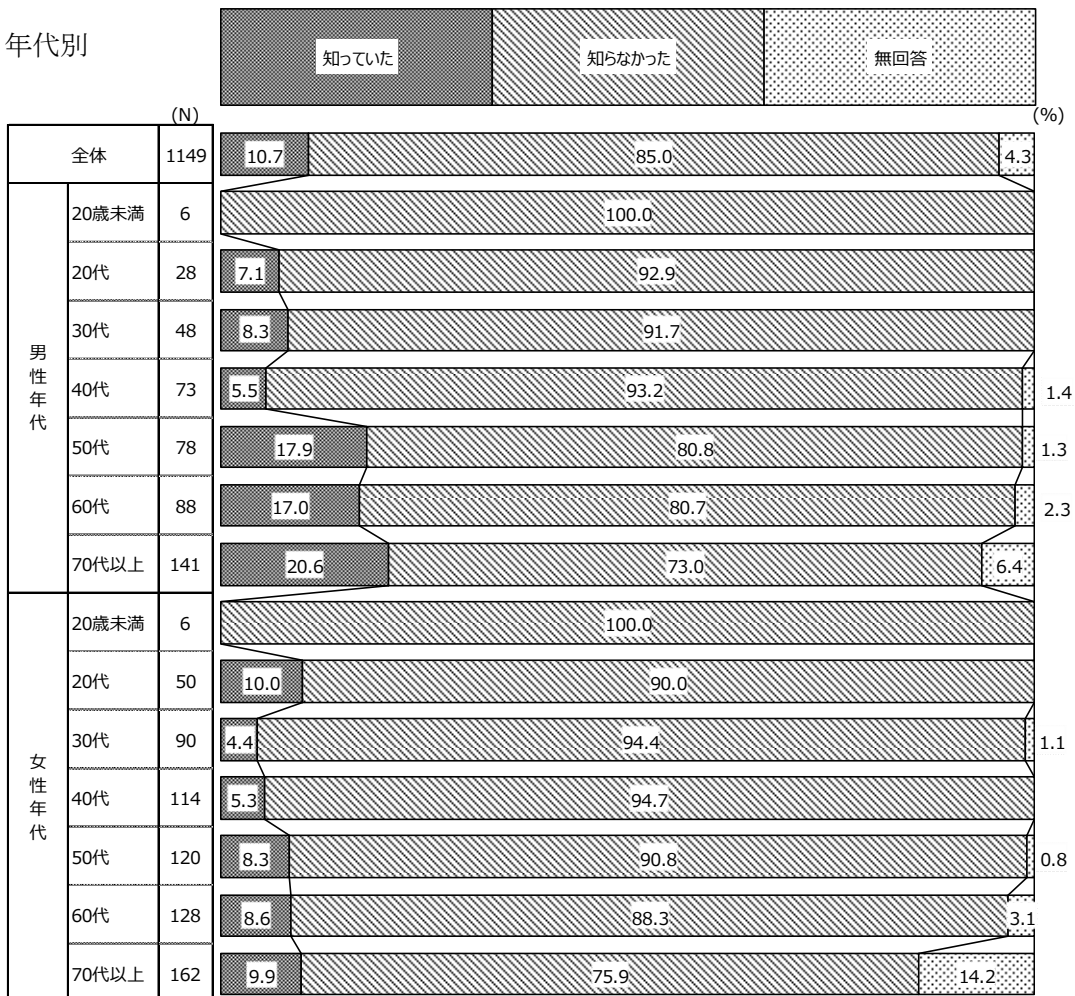
Q12 平成29年の育児・介護休業法改正で、「介護休業」(93日まで)はこれまで1回限りでしたが、3回まで分割取得が可能となり、「介護休暇」(1年度に5日まで)はこれまで1日単位でしたが、半日単位で取得することが可能になりました。これらの制度改革を知っていましたか。(○は1つ)



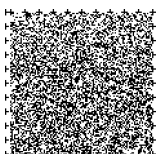
介護休業・介護休暇の制度改革については、「知っていた」が10.7%、「知らなかった」が85.0%となっている。

性別でみると、「知っていた」は男性14.9%、女性7.7%で、男性の方が高くなっている。

#### ■性別・年代別

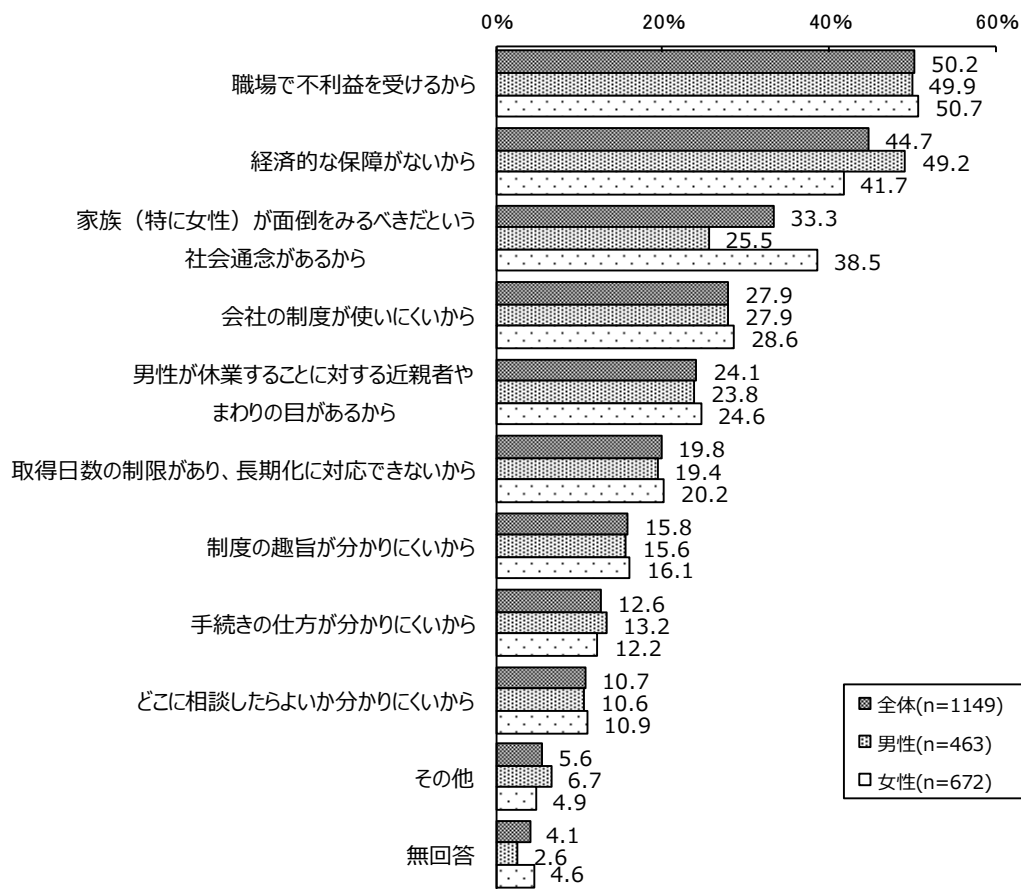


性別・年代別では、男性50代～70代以上の認知度が17.0～20.6%と高くなっている。



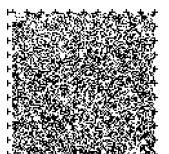
(12) 男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由

Q13 男女ともに育児休業や介護休業の取得が進まないのはなぜだと思いますか。(〇は3つまで)



男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由としては、「職場で不利益を受けるから」が全体で50.2%（男性49.9%、女性50.7%）でもっとも高く、これに「経済的な保障がないから」（44.7%）、「家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから」（33.3%）が続いている。

性別でみると、「家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから」が女性は38.5%で男性（25.5%）より13.0ポイント高くなっている。

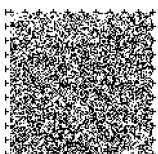


■性別・年代別

(%)

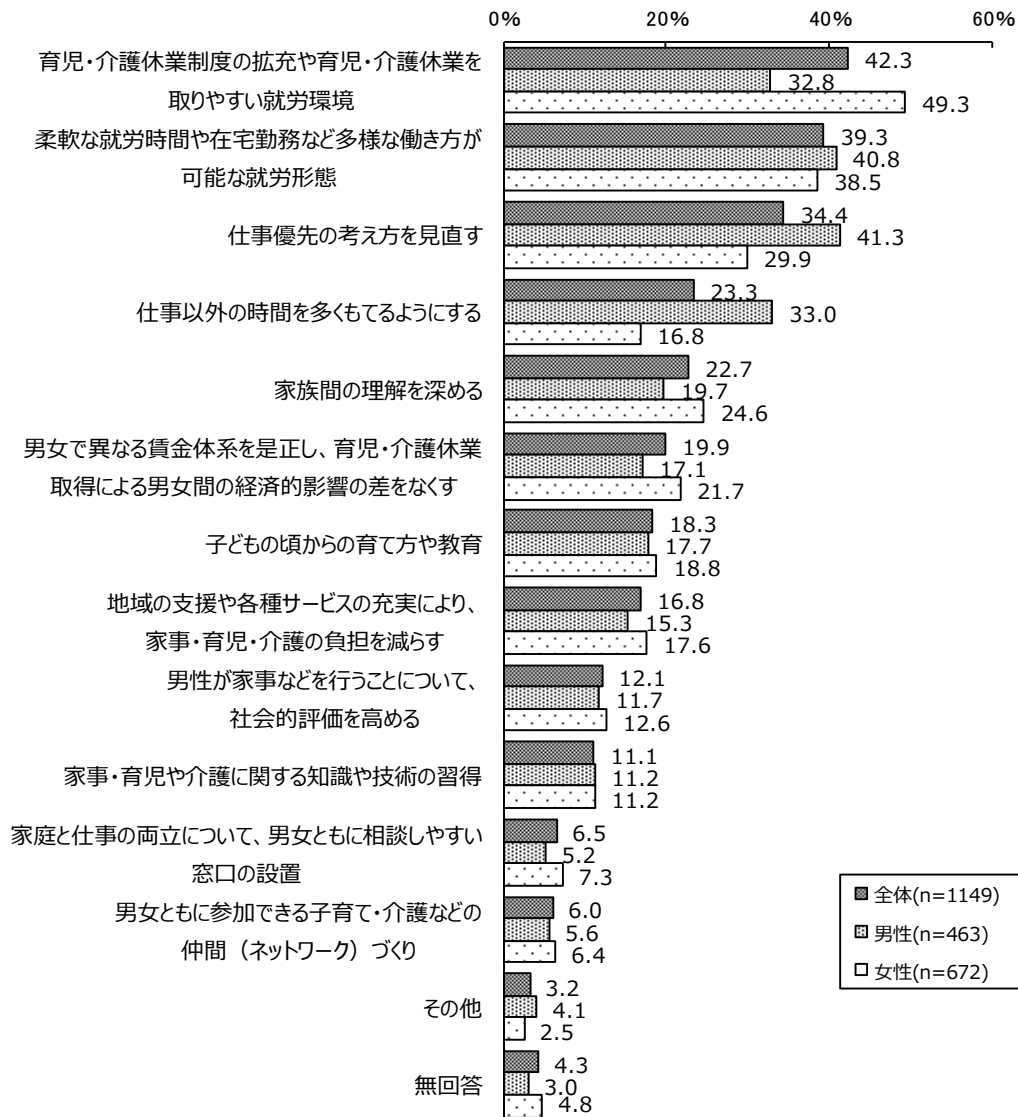
		n	職場で不利益を受けるから	経済的な保障がないから	きだ（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから	会社の制度が使いにくいから	男性が休業することに対する近親者やまわりの目があるから	対応できないから	取得日数の制限があり、長期化に	制度の趣旨が分かりにくいから	手続きの仕方が分かりにくいから	どこに相談したらよいか分かりにくいから	その他	無回答
	全体	1149	50.2	44.7	33.3	27.9	24.1	19.8	15.8	12.6	10.7	5.6	4.1	
男性年代	20歳未満	6	83.3	33.3	16.7	16.7	-	50.0	33.3	-	16.7	16.7	-	
	20代	28	64.3	46.4	28.6	39.3	32.1	7.1	14.3	10.7	14.3	3.6	-	
	30代	48	54.2	52.1	20.8	29.2	22.9	12.5	10.4	22.9	18.8	10.4	2.1	
	40代	73	46.6	52.1	24.7	30.1	16.4	17.8	21.9	16.4	8.2	12.3	1.4	
	50代	78	48.7	50.0	21.8	28.2	19.2	17.9	10.3	17.9	11.5	7.7	-	
	60代	88	50.0	53.4	30.7	33.0	25.0	22.7	11.4	9.1	5.7	4.5	2.3	
	70代以上	141	46.8	45.4	26.2	21.3	28.4	22.7	19.1	9.2	10.6	3.5	5.7	
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	50.0	-	66.7	16.7	-	16.7	16.7	-	-	
	20代	50	66.0	46.0	28.0	42.0	28.0	18.0	8.0	18.0	16.0	6.0	-	
	30代	90	57.8	44.4	41.1	37.8	23.3	15.6	11.1	13.3	13.3	10.0	-	
	40代	114	61.4	40.4	38.6	27.2	34.2	21.9	14.9	13.2	9.6	7.0	-	
	50代	120	53.3	37.5	42.5	27.5	25.0	23.3	16.7	15.0	8.3	5.8	0.8	
	60代	128	46.9	41.4	43.8	32.8	22.7	22.7	21.9	9.4	10.9	0.8	3.9	
	70代以上	162	35.2	43.8	32.7	19.1	17.3	17.9	17.3	8.6	9.9	3.1	15.4	

性別・年代別では、「経済的な保障がないから」が男性30代～60代で5割を超えて高くなっている。また、「職場で不利益を受けるから」が男性20代、女性20代・40代で6割を超え、「会社の制度が使いにくいから」が男性20代、女性20代・30代で4割前後、「家族が面倒をみるべきだという社会通念がある」が女性30代・50代・60代で4割強と高くなっている。



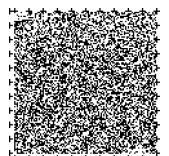
(13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと

Q14 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)



ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(42.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(39.3%)が上位となり、これらに「仕事優先の考え方を見直す」(34.4%)が続いている。

性別でみると、男性は「仕事優先の考え方を見直す」(41.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(40.8%)が高く、女性は「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(49.3%)が高くなっている。



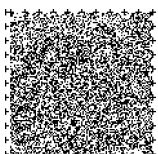


■性別・年代別

(%)

		n	育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境	柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態	仕事優先の考え方を見直す	仕事以外の時間を多くもてるようにする	家族間の理解を深める	業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	男女で異なる賃金体系的正し、育児・介護休業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	子どもの頃からの育て方や教育	地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす	男性が家事などを行うことについて、社会的評価を高める	家事・育児や介護に関する知識や技術の習得	家庭と仕事の両立について、男女ともに相談しやすい窓口の設置	男女ともに参加できる子育て・介護などの仲間（ネットワーク）づくり	その他	無回答
	全体	1149	42.3	39.3	34.4	23.3	22.7	19.9	18.3	16.8	12.1	11.1	6.5	6.0	3.2	4.3	
男性年代	20歳未満	6	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	-	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	
	20代	28	10.7	46.4	57.1	67.9	10.7	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3	3.6	7.1	-	-	
	30代	48	27.1	47.9	37.5	41.7	20.8	12.5	10.4	8.3	10.4	12.5	2.1	4.2	12.5	-	
	40代	73	27.4	47.9	41.1	37.0	17.8	17.8	20.5	13.7	16.4	8.2	1.4	8.2	5.5	2.7	
	50代	78	34.6	41.0	47.4	35.9	16.7	12.8	15.4	17.9	9.0	5.1	5.1	3.8	6.4	1.3	
	60代	88	35.2	45.5	42.0	27.3	18.2	17.0	18.2	20.5	11.4	12.5	2.3	4.5	1.1	3.4	
	70代以上	141	38.3	30.5	35.5	22.7	24.1	23.4	20.6	15.6	12.1	14.2	10.6	6.4	2.1	5.7	
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	33.3	50.0	-	33.3	-	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	
	20代	50	62.0	54.0	32.0	42.0	12.0	10.0	4.0	22.0	8.0	14.0	8.0	10.0	4.0	-	
	30代	90	58.9	41.1	31.1	28.9	15.6	23.3	25.6	16.7	15.6	8.9	-	5.6	1.1	1.1	
	40代	114	51.8	48.2	36.8	14.9	21.1	21.1	20.2	9.6	14.9	10.5	3.5	3.5	5.3	-	
	50代	120	41.7	43.3	30.8	11.7	29.2	23.3	20.8	15.0	19.2	12.5	7.5	8.3	4.2	1.7	
	60代	128	56.3	32.0	28.9	15.6	31.3	26.6	14.8	21.1	7.8	9.4	12.5	4.7	-	5.5	
	70代以上	162	37.7	27.2	24.1	7.4	27.8	19.1	21.0	21.6	9.9	12.3	9.3	8.0	1.2	13.6	

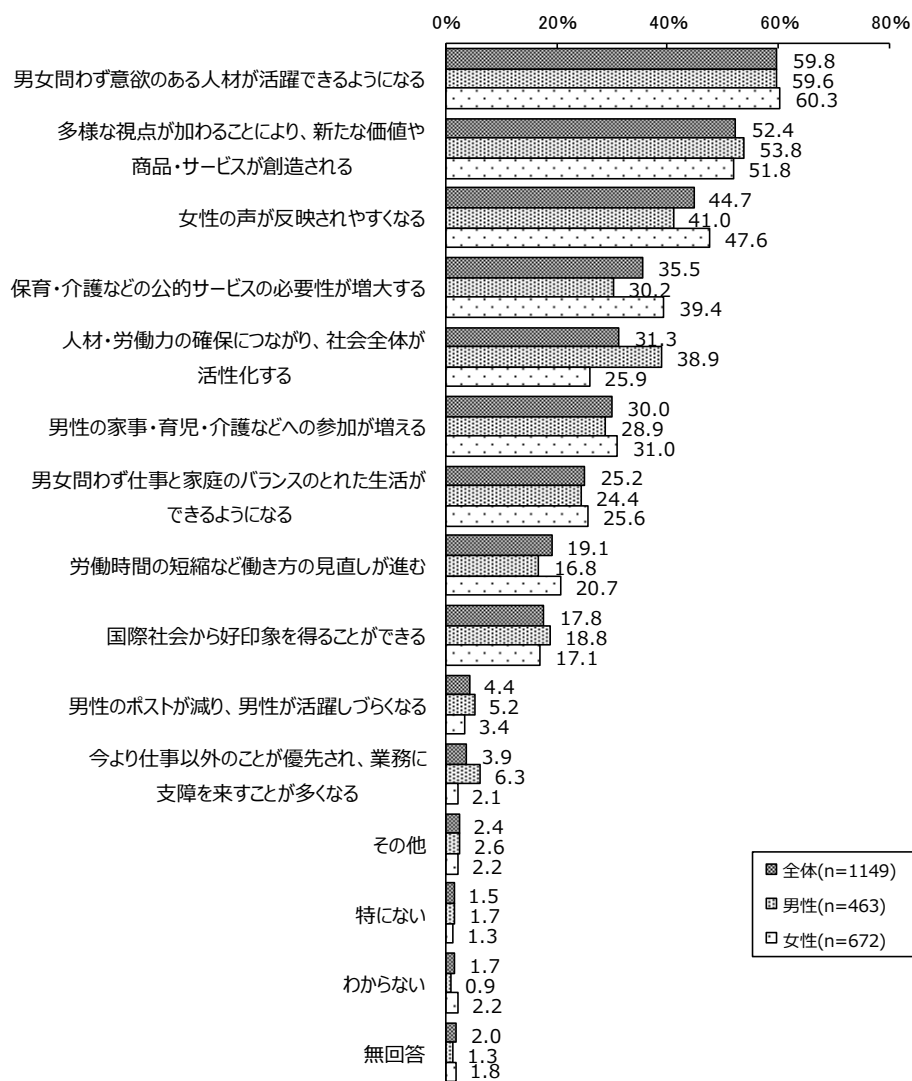
性別・年代別では、「仕事優先の考え方を見直す」が男性20代・50代で57.1%、47.4%と高く、「仕事以外の時間を多くもてるようにする」が男性20代・30代、女性20代で4割を超え、特に男性20代では67.9%と高くなっている。また、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」が男性20代～40代、女性20代・40代で5割前後、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」が女性20代～40代・60代で5～6割と高くなっている。



## D 女性の活躍推進について

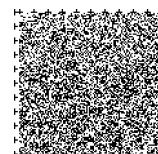
### (1) 女性の活躍を進めたことによる影響

Q15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)



政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか、という点については、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が59.8%でもっとも高く、これに「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(52.4%)、「女性の声が反映されやすくなる」(44.7%)、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」(35.5%)が続く。

性別でみると、「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」は男性38.9%で女性(25.9%)より高く、「女性の声が反映されやすくなる」は女性47.6%、男性41.0%「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」は女性39.4%、男性30.2%と、どちらも女性が高くなっている。

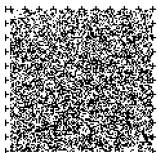


■性別・年代別

(%)

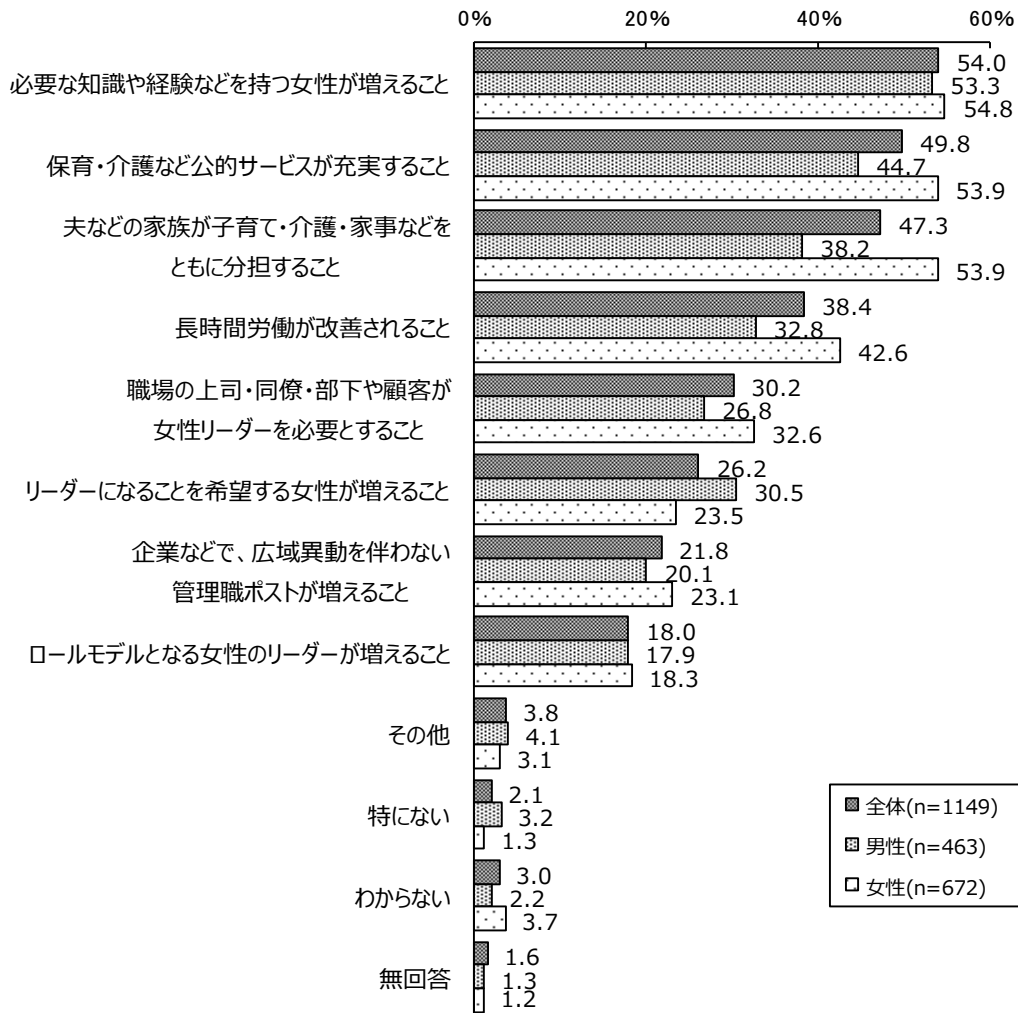
		n	男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる	多様な視点や商品・サービスが創造される	女性の声が反映されやすくなる	性が増大する	保育・介護などの公的サービスの必要	人材が活性化される	全体が活性化される	人材・労働力の確保につながり、社会	が増える	男性の家事・育児・介護などへの参加	男女問わず仕事と家庭のバランスのと	れた生活ができるようになる	進む	労働時間の短縮など働き方の見直し	る	国際社会から好印象を得ることができ	らくなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづ	務に支障を来すことが多くなる	今より仕事以外のことが優先され、業	その他	特にな	わからない	無回答
	全体	1149	59.8	52.4	44.7	35.5	31.3	30.0	25.2	19.1	17.8	4.4	3.9	2.4	1.5	1.7	2.0									
男性年代	20歳未満	6	33.3	83.3	50.0	50.0	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代	28	46.4	53.6	42.9	25.0	28.6	21.4	25.0	17.9	21.4	10.7	14.3	-	-	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	48	50.0	35.4	45.8	18.8	10.4	27.1	20.8	12.5	12.5	6.3	8.3	8.3	4.2	2.1	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代	73	64.4	50.7	43.8	35.6	34.2	27.4	32.9	15.1	17.8	5.5	6.8	4.1	-	-	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50代	78	59.0	62.8	50.0	26.9	42.3	25.6	25.6	12.8	9.0	7.7	5.1	1.3	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60代	88	64.8	54.5	38.6	33.0	38.6	30.7	14.8	18.2	21.6	4.5	5.7	1.1	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	70代以上	141	61.0	55.3	33.3	31.9	51.1	32.6	26.2	20.6	24.8	2.8	4.3	2.1	1.4	1.4	1.4	2.1	-	-	-	-	-	-	-	
女性年代	20歳未満	6	33.3	66.7	66.7	16.7	-	66.7	83.3	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代	50	50.0	62.0	54.0	32.0	24.0	30.0	30.0	22.0	22.0	2.0	2.0	2.0	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30代	90	64.4	61.1	40.0	40.0	20.0	32.2	32.2	24.4	16.7	5.6	3.3	4.4	1.1	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	40代	114	60.5	52.6	55.3	38.6	22.8	20.2	21.1	20.2	23.7	3.5	1.8	3.5	2.6	2.6	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	
	50代	120	68.3	48.3	45.8	35.8	21.7	32.5	21.7	13.3	11.7	3.3	2.5	1.7	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	60代	128	64.1	58.6	53.1	43.0	34.4	39.8	31.3	25.0	20.3	1.6	0.8	1.6	0.8	1.6	1.6	0.8	-	-	-	-	-	-	-	
	70代以上	162	53.7	38.9	40.7	42.6	29.0	28.4	20.4	21.0	13.6	4.3	2.5	1.2	0.6	4.9	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	

性別・年代別では、「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が男性50代、女性20代・30代で6割強と高く、「女性の声が反映される」が女性20代・40代・60代で5割強、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が女性50代で7割強と高くなっている。



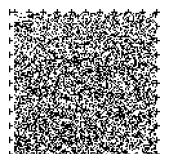
## (2) 女性の活躍を進めるために必要なこと

Q16 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーが増えるために必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)



女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」全体54.0%で男女ともにもっとも高く、次いで「保育・介護など公的サービスが充実すること」全体49.8%となっている。「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」は全体47.3%となっており、女性(53.9%)が男性(38.2%)より15.7ポイント高くなっている。

男性は「リーダーになることを希望する女性が増えること」が30.5%で女性(23.5%)より7.0ポイント高くなっている。

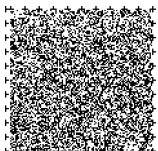


■性別・年代別

(%)

		n	が増えること	必要な知識や経験などを持つ女性	実すること	保育・介護など公的サービスが充実	事などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること	夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること	長時間労働が改善されること	女性リーダーを必要とする顧客が	職場の上司・同僚・部下や顧客が増えること	リーダーになることを希望する女性が増えること	管理職ポストが増えること	企業などで、広域異動を伴わない	ロールモデルとなる女性のリーダーが増えること	その他	特にな	わからない	無回答
	全体	1149	54.0	49.8	47.3	38.4	30.2	26.2	21.8	18.0	3.8	2.1	3.0	1.6					
男性年代	20歳未満	6	50.0	16.7	33.3	50.0	50.0	-	16.7	33.3	-	-	16.7	-					
	20代	28	39.3	53.6	21.4	35.7	17.9	32.1	3.6	21.4	10.7	3.6	3.6	-					
	30代	48	29.2	35.4	35.4	31.3	27.1	20.8	22.9	14.6	6.3	8.3	4.2	2.1					
	40代	73	42.5	49.3	41.1	28.8	34.2	34.2	16.4	20.5	2.7	2.7	2.7	1.4					
	50代	78	55.1	42.3	33.3	29.5	23.1	34.6	15.4	21.8	3.8	5.1	1.3	-					
	60代	88	58.0	47.7	44.3	34.1	23.9	33.0	21.6	19.3	2.3	2.3	-	1.1					
	70代以上	141	66.7	44.7	40.4	35.5	27.7	28.4	26.2	13.5	4.3	1.4	2.1	2.1					
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	16.7	-	-	16.7	-					
	20代	50	34.0	60.0	50.0	50.0	32.0	30.0	18.0	28.0	-	4.0	2.0	-					
	30代	90	41.1	58.9	57.8	47.8	38.9	27.8	23.3	24.4	5.6	1.1	1.1	1.1					
	40代	114	49.1	51.8	56.1	40.4	30.7	33.3	21.1	22.8	6.1	2.6	2.6	-					
	50代	120	48.3	58.3	54.2	40.0	35.0	24.2	20.8	20.8	4.2	0.8	2.5	-					
	60代	128	68.0	57.0	57.0	44.5	33.6	16.4	32.0	20.3	2.3	-	3.9	0.8					
	70代以上	162	66.7	45.1	50.0	40.1	27.8	16.0	21.0	5.6	0.6	1.2	6.8	3.7					

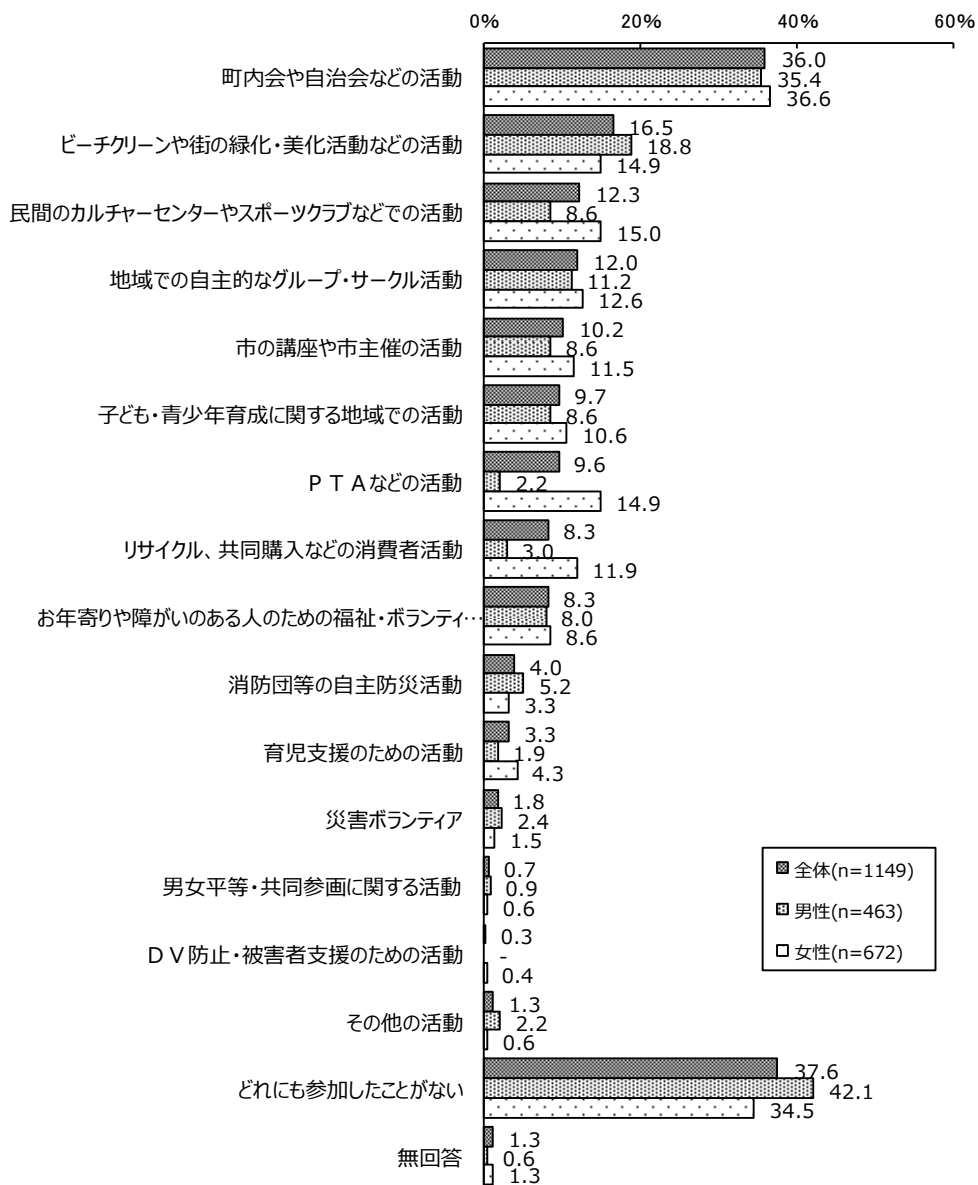
性別・年代別でみると、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」が男性70代以上、女性60代・70代以上で7割弱、「長時間労働が改善されること」が女性20代・30代で5割前後、「保育・介護など公的サービスが充実すること」が女性20代・30代・50代で6割前後、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が女性30代・40代・60代で6割弱と高くなっている。



## E 社会参画について

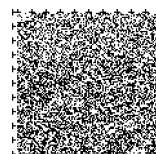
### (1) ボランティア活動や地域活動への参加状況

Q17 あなたはこの1～2年の間に、以下のような活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



この1～2年の間のボランティア活動や地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が36.0%でもっとも高く、これに「ビーチクリーンや街の緑化・美化活動などの活動」(16.5%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」(12.3%)、「地域での自主的なサークル活動」(12.0%)、「市の講座や市主催の活動」(10.2%)が1割台で続く。一方、「どれにも参加したことがない」は全体37.6%、男性42.1%、女性34.5%で男性が4割強と高くなっている。

性別で見ると、女性は「P T Aなどの活動」が14.9%で男性(2.2%)より12.7ポイント高くなっている。



■性別・年代別

(%)

	n	町内会や自治会などの活動	文化活動などの活動	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動	サークル活動	地域での自主的なグループ・市の講座や市主催の活動	子ども・青少年育成に関する地域での活動	P T Aなどの活動	費者活動	リサイク、共同購入などの消	めのお年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	お年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	消防団等の自主防災活動	育児支援のための活動	災害ボランティア	男女平等・共同参画に関する活動	D V 防止・被害者支援のための活動	その他の活動	どれにも参加したことがない	無回答
全体	1,149	36.0	16.5	12.3	12.0	10.2	9.7	9.6	8.3	8.3	4.0	3.3	1.8	0.7	0.3	1.3	37.6	1.3		
男性年代	20歳未満	6	-	33.3	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	20代	28	7.1	17.9	3.6	3.6	-	7.1	-	3.6	7.1	-	-	-	3.6	-	-	71.4	-	
	30代	48	27.1	10.4	6.3	2.1	4.2	4.2	-	4.2	2.1	8.3	4.2	-	-	-	-	2.1	50.0	2.1
	40代	73	26.0	24.7	5.5	5.5	9.6	12.3	2.7	4.1	5.5	2.7	1.4	-	-	-	-	1.4	45.2	1.4
	50代	78	33.3	19.2	5.1	5.1	1.3	5.1	6.4	2.6	6.4	7.7	2.6	3.8	-	-	-	1.3	51.3	-
	60代	88	40.9	17.0	8.0	11.4	12.5	14.8	1.1	1.1	8.0	4.5	4.5	4.5	-	-	-	3.4	37.5	-
	70代以上	141	47.5	19.1	14.2	22.0	13.5	7.1	1.4	3.5	12.1	5.7	-	2.8	2.1	-	-	2.8	29.8	0.7
女性年代	20歳未満	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	20代	50	10.0	6.0	6.0	2.0	4.0	10.0	-	6.0	6.0	-	2.0	-	-	-	-	-	64.0	-
	30代	90	35.6	20.0	6.7	8.9	10.0	16.7	23.3	21.1	2.2	3.3	7.8	4.4	-	-	-	1.1	32.2	1.1
	40代	114	46.5	21.1	14.0	9.6	10.5	22.8	49.1	12.3	5.3	3.5	6.1	-	-	0.9	-	-	22.8	-
	50代	120	39.2	12.5	17.5	10.0	14.2	7.5	12.5	11.7	5.8	2.5	3.3	0.8	1.7	0.8	-	-	29.2	0.8
	60代	128	43.8	19.5	18.8	16.4	14.1	7.0	4.7	10.9	13.3	2.3	3.9	2.3	0.8	-	-	1.6	32.8	0.8
	70代以上	162	32.1	9.3	19.1	19.8	11.7	4.3	1.2	9.3	13.6	5.6	3.1	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6	38.3	3.7

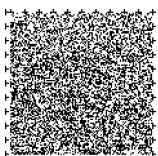
性別・年代別では、男性70代以上で「町内会や自治会などの活動」が47.5%、「地域での自主的なグループ・サークル活動」が22.0%と高くなっている。また、女性40代で「町内会や自治会などの活動」、「子ども・青少年育成に関する地域での活動」、「P T Aなどの活動」が46.5%、22.8%、49.1%と高くなっている。

【参考】前回調査結果

(%)

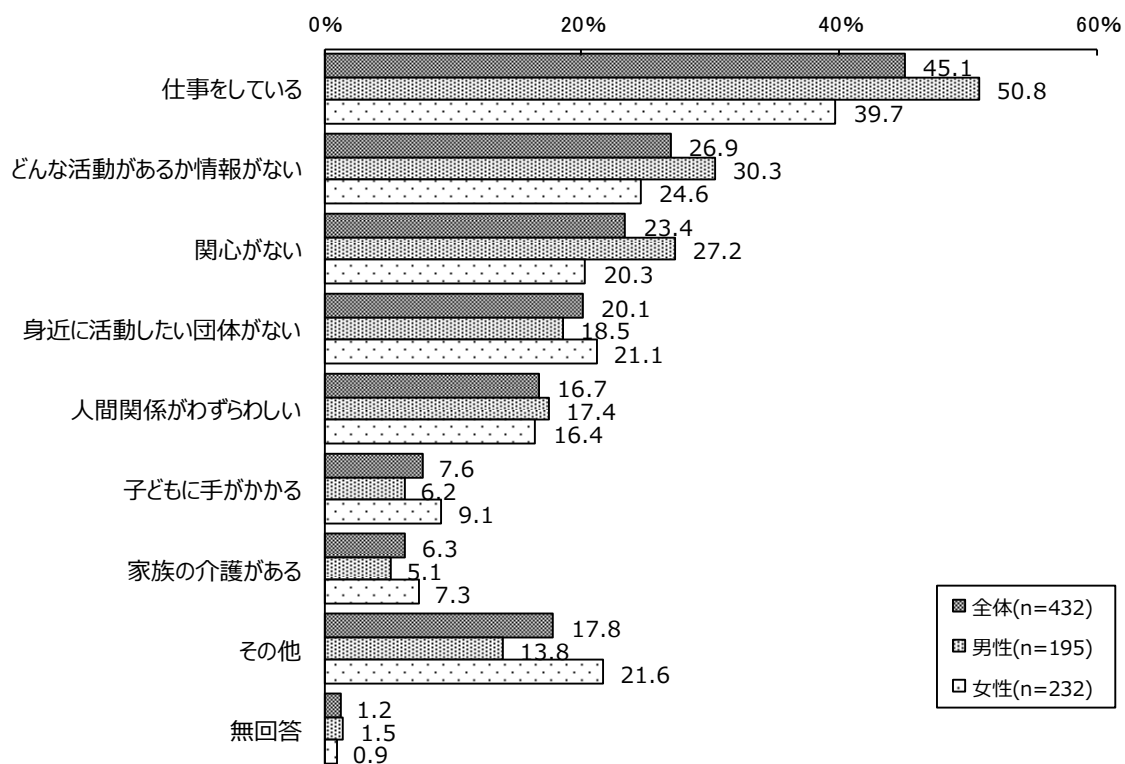
	n	町内会や自治会などの活動	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動	P T Aなどの活動	市の講座や市主催の活動	地域での自主的なグループ・サークル活動	どの消費者活動、共同購入	リサイク、共同購入	めのお年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	に子ども会など青少年育成	育児支援のための活動	の市民活動、環境保護など	公の活動	する男女平等・共同参画に関する活動	たための活動	D V 防止・被害者支援の	その他の活動	ない	どれにも参加したことが	無回答
全体	1,127	38.8	16.7	12.3	11.3	11.0	10.1	9.6	8.6	4.3	3.4	1.1	0.5	1.9	36.6	1.1				
男性	426	33.6	10.3	3.1	7.0	8.7	5.6	5.9	6.3	0.7	4.7	0.7	0.2	1.6	50.2	0.5				
女性	662	42.7	20.7	19.0	14.7	12.5	13.3	12.4	10.6	6.6	2.4	1.4	0.8	2.1	27.6	0.5				

前回調査では、全体では「町内会や自治会などの活動」が38.8%（男性33.6%、女性42.7%）でもっとも高く、次いで「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」となっている。一方「どれにも参加したことがない」は前回調査結果と比べて、今回は男性で減少したが、女性は増加している。

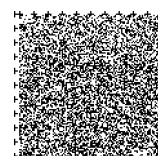


## (2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由

Q17-1 Q17で「16. どれにも参加したことがない」とお答えの方におたずねします。  
あなたが活動をしていない理由は、どのようなことでしょうか。(〇は3つまで)



ボランティア活動や地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」が全体で45.1%、男女でみてももっとも高く、以下、「どんな活動があるか情報がない」全体で26.9%、「関心がない」全体で23.4%の順となり、これらの項目は男性が女性より高くなっている。





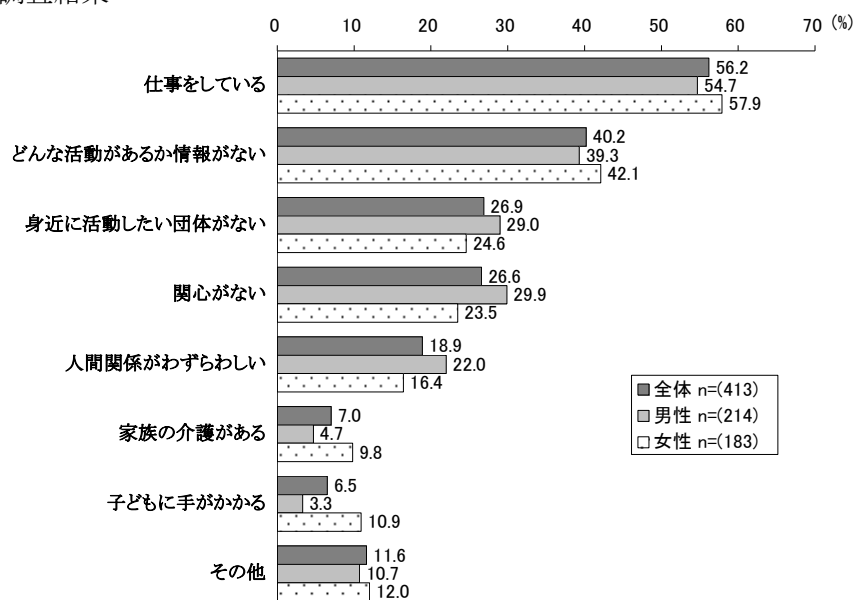
■性別・年代別

(%)

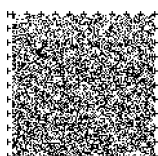
	n	仕事をしている	どんな活動があるか情報がない	関心がない	身近に活動したい団体がない	人間関係がわずらわしい	子どもに手がかかる	家族の介護がある	その他	無回答
全体	432	45.1	26.9	23.4	20.1	16.7	7.6	6.3	17.8	1.2
男性年代	20歳未満	3	-	-	33.3	-	-	-	66.7	-
	20代	20	50.0	50.0	50.0	25.0	20.0	5.0	-	-
	30代	24	70.8	37.5	29.2	8.3	29.2	20.8	-	4.2
	40代	33	66.7	24.2	39.4	15.2	15.2	12.1	-	9.1
	50代	40	70.0	25.0	12.5	20.0	15.0	5.0	5.0	12.5
	60代	33	48.5	30.3	21.2	18.2	12.1	-	15.2	9.1
女性年代	20歳未満	6	-	50.0	33.3	16.7	-	-	50.0	-
	20代	32	62.5	40.6	31.3	15.6	12.5	12.5	-	6.3
	30代	29	51.7	27.6	20.7	13.8	13.8	41.4	-	3.4
	40代	26	65.4	38.5	19.2	7.7	23.1	19.2	-	23.1
	50代	35	62.9	14.3	28.6	31.4	14.3	-	5.7	14.3
	60代	42	33.3	16.7	11.9	35.7	26.2	-	19.0	19.0
70代以上	62	6.5	17.7	14.5	17.7	12.9	-	11.3	40.3	3.2

性別・年代別でみると、「仕事をしている」が男性30代～50代、女性20代・40代・50代で6～7割、「どんな活動があるか情報がない」が男性20代・30代、女性20代・40代で4～5割、「関心がない」が男性20代・40代で4～5割、「子どもに手がかかる」が女性30代で4割と高くなっている。

【参考】 前回調査結果

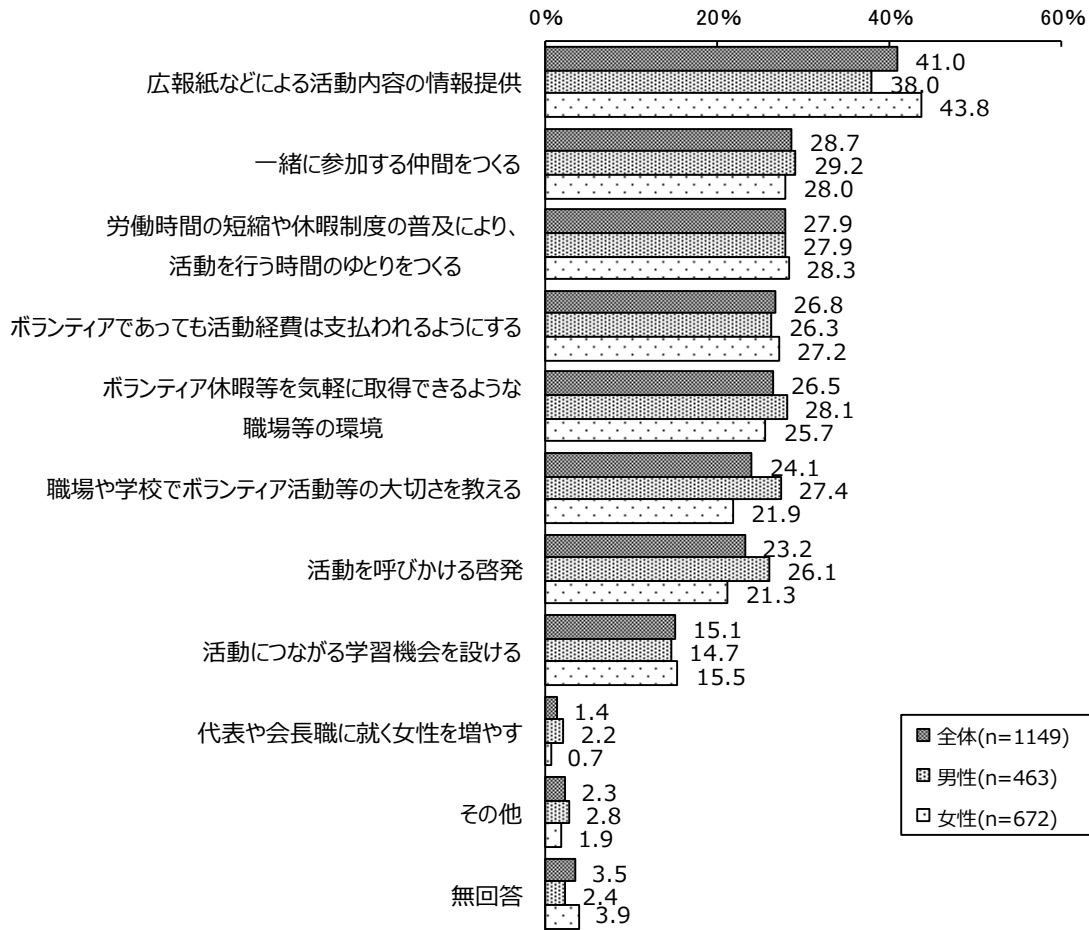


前回調査では、「仕事をしている」が全体56.2%、女性57.9%、男性54.2%となっているが、今回の調査結果では男女ともに減少している。また、「どんな活動があるか情報がない」「身近に活動したい団体がない」、「関心がない」も男女ともに減少している。



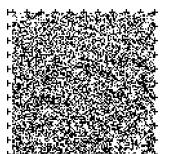
### (3) ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと

Q18 さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が41.0%でもっとも高く、以下、「一緒に参加できる仲間をつくる」(28.7%)、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」(27.9%)、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」(26.8%)、「ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境」(26.5%)の順となっている。

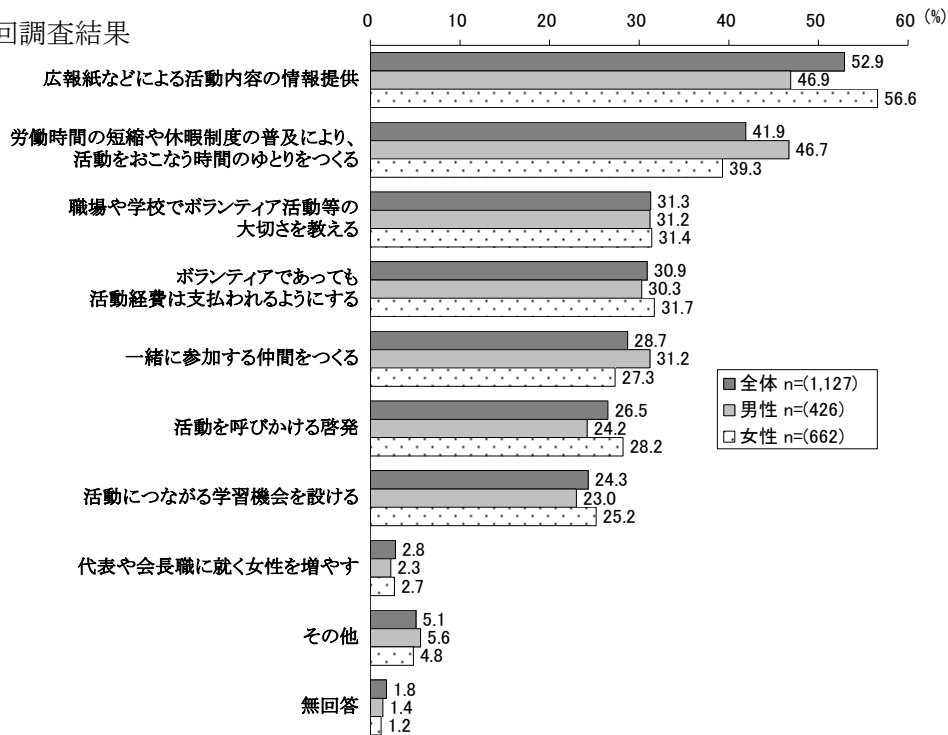
性別でみると、男性は「職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える」が27.4%と女性よりもやや高く、女性は「広報紙などによる活動内容の情報提供」が43.8%と男性よりもやや高くなっている。



	n	の広 情報 紙な どに よる 活動 内容	一 緒に 参加 する 仲間 をつ くる	時 間の ゆと りをつ くる	労働 時間の 短縮 や休 暇制 度の 普及	動 経費 は支 払わ れる よう にする	ボ ラン ティア 活動 等が 気軽 に取 得可 きる よう な職 場等 の環 境	活 動等 の学 校で ボラ ンテ ィア を教 える	職 場や 学校 でボ ラン ティア を教 える	活 動を 呼び かけ る啓 発	設 ける につ なが る学 習機 会を 設ける	増 やす 代表 や会 長職 に就 く女 性を 増やす	そ の他	無 回答
全体	1149	41.0	28.7	27.9	26.8	26.5	24.1	23.2	15.1	1.4	2.3	3.5		
男性年代	20歳未満	6	50.0	16.7	33.3	16.7	-	33.3	50.0	-	-	16.7	-	
	20代	28	21.4	35.7	39.3	35.7	39.3	17.9	10.7	-	-	-	-	
	30代	48	16.7	27.1	39.6	29.2	35.4	14.6	12.5	10.4	-	10.4	2.1	
	40代	73	32.9	32.9	32.9	24.7	28.8	28.8	24.7	12.3	-	1.4	2.7	
	50代	78	41.0	23.1	38.5	32.1	30.8	23.1	24.4	17.9	-	-	2.6	
	60代	88	43.2	25.0	20.5	19.3	27.3	35.2	36.4	21.6	2.3	3.4	1.1	
70代以上	141	45.4	33.3	17.7	26.2	23.4	30.5	27.0	12.8	5.7	2.1	3.5		
女性年代	20歳未満	6	33.3	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	
	20代	50	32.0	32.0	48.0	34.0	30.0	18.0	28.0	2.0	-	-	-	
	30代	90	43.3	27.8	43.3	25.6	24.4	20.0	24.4	8.9	-	3.3	2.2	
	40代	114	33.3	26.3	39.5	34.2	32.5	21.9	22.8	14.0	-	4.4	-	
	50代	120	48.3	22.5	29.2	31.7	30.8	18.3	20.0	10.0	-	1.7	1.7	
	60代	128	46.9	31.3	18.8	28.1	25.0	25.0	18.0	25.0	0.8	-	3.1	
70代以上	162	49.4	30.2	12.3	17.9	16.7	24.1	19.8	19.8	1.9	1.9	11.1		

性別・年代別では、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が女性50代～70代以上で5割弱、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」が男性20代・30代、女性20代～40代で4～5割、「ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境」が男性20代で約4割、「活動を呼びかける啓発」が男性60代で4割弱と高くなっている。

【参考】 前回調査結果



前回調査では、「広報誌などによる活動内容の情報提供」が全体で52.9%、女性56.6%、男性46.9%でもっとも高くなっているが、今回の調査結果では男女ともに大きく減少している。

